

伊藤ハムグループ
2010年 CSR報告書
Ito Ham Group Corporate Social Responsibility Report

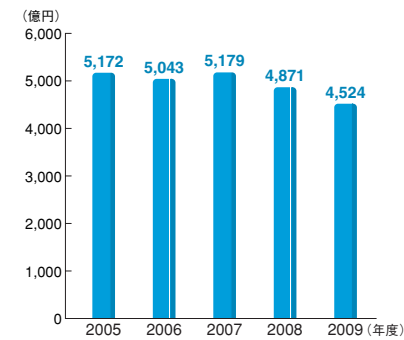


会社概要 (2010年3月現在)

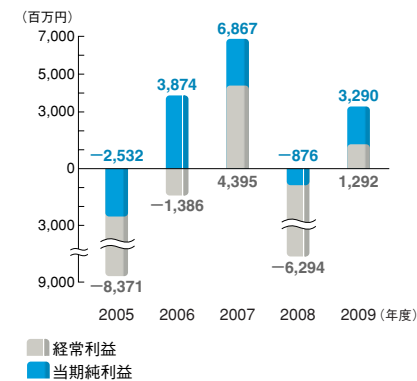
会社名	伊藤ハム株式会社	
設立	1948年(昭和23年)	
創業	1928年(昭和3年)	
本社事務所	兵庫県西宮市高畑町4番27号	
代表者	代表取締役社長 堀尾 守	
資本金	284億2,700万円	
売上高	4,524億5,300万円(連結)	
連結対象会社	連結子会社	32社
	持分法適用関連会社	12社
従業員数	2,378人(連結:5,963人)	
主な事業	● 食肉加工品の製造および販売 ● 食肉の加工および販売 ● 調理加工食品、惣菜類の製造および販売 など	

業績(連結)

売上高の推移



経常利益／当期純利益の推移



I N D E X

- 1 会社概要
「2010年 CSR報告書」について

トップコミットメント

3 ごあいさつ

マネジメント

5 経営方針
社是、企業理念、企業姿勢 3C
6 コンプライアンス

消費者の皆様とともに

9 安全・安心への取り組み
10 お客様の声の反映
11 食育

株主・投資家様とともに

13 企業情報開示・IR活動
開かれた株主総会を目指して
株主優待制度

社会貢献活動

- 14 社会貢献活動の取り組み
15 ユニセフ支援活動
ボランティア支援活動
16 自然環境保護活動
地域社会貢献活動

従業員とともに

- 17 人材の育成・雇用
18 労働安全衛生
健康管理

環境保全活動

- 19 環境宣言(基本理念、行動指針)
20 環境負荷の全体像
21 第3次中期環境目標の取り組み結果と
自己評価、第4次中期環境目標
23 2009年度の活動ハイライト
24 マネジメント
26 環境負荷低減の取り組み
31 環境情報開示
32 従業員教育・地域とのコミュニケーション
33 環境会計
34 環境データ
38 環境保全活動の沿革

「2010年 CSR報告書」について

編集方針

伊藤ハムでは2000年から「環境報告書」を発行し、今年で11回目の発行となります。2005年からは社会的側面の記述を充実させて「社会・環境報告書」として発行し、2008年から「企業の社会的責任」(Corporate Social Responsibility)に対する弊社の取り組みを皆様にご報告する内容に改めて、タイトルを「CSR報告書」としました。

今回の報告書では、2009年度のCSR活動の報告を主な内容として、「お客様」「株主・投資家様」「地域社会」「従業員」など多様なステークホルダーの皆様に対して、分かりやすくお伝えるために、より簡潔な表現、親しみやすいデザインを心がけました。開示すべき事項で優先度の高いものや皆様の関心が高いと思われるものを掲載し、サイトごとの詳細データ等については、Webサイト(弊社ホームページ)に掲載します。

■弊社ホームページ: <http://www.itoham.co.jp>

対象範囲など

◇報告対象組織

基本的には伊藤ハムグループの取り組みを報告していますが、一部の報告では伊藤ハム株式会社、もしくは弊社およびグループの生産工場に限定している場合もあります。

◇報告対象分野

伊藤ハムグループが取り組みを行う社会的活動および環境保全活動

◇対象期間

基本的には2009年度(2009年4月1日から2010年3月31日)の取り組みを報告していますが、一部では2009年度以前、以降についても報告しています。

◇参考にしたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版および2007年度版)」
GRI「サステナビリティレポートガイドライン2006」

※「環境保全活動」の事業所写真は、原則として伊藤ハム(株)のものを掲載しています。関連会社の事業所を掲載した場合は、注釈に当該社名および事業所名を記載しました。





「食」を担う企業として社会から 信頼される企業であり続けることを目指して

コンプライアンスは最重要

伊藤ハム株式会社は、1928年の創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」の社是のもと、皆様の健康にとって大切な動物性タンパク質である食肉や食肉加工食品をお届けすることによって、食生活の向上に貢献すべく努力してまいりました。また、「食」を担う企業として社会から信頼される企業であり続けるために、コンプライアンス体制を充実させ経営品質を高めるとともに、地球環境への配慮、社会貢献活動や食育活動などの分野においても、社会の一員として責務を果たすべく活動しております。

私は代表取締役社長を拝命した今年4月1日に新経営方針を定めましたが、その1番目に「コンプライアンス体制のさらなる充実など経営品質を高める」ことを掲げました。これは「コンプライアンスは経営の根幹を成す考え方で、企業活動の大前提である」ということを再認識し、コンプライアンス体制をはじめとするグループ内の種々の管理体制を充実させて、経営のレベルを向上させることを意図しております。伊藤ハムグループはCSR本部が中核となってコンプライアンスを推進していますが、第三者の目でCSR体制をチェックし、その結果を取締役に提言する「CSR委員会」、各部署でのコンプライアンスに関する課題や問題をグループ全社で共有し、改善策を定める「コンプライアンス責任者会議」、さらには「草の根レベル」からのコンプライアンス強化策のひとつとして、全国の若手社員の中から165名のコンプライアンス委員を選び、それぞれ担当事業場を定め、その事業場でコンプライアンス違反問題が発

生しないよう監視・予防する仕組みである「コンプライアンス委員制度」を運用して、グループ全社を挙げて、さらなるコンプライアンス体制の強化、充実を進めてまいります。さらに、コンプライアンスの徹底には社員全員の意識と知識の向上が不可欠との認識から、全従業員を対象としたコンプライアンス教育プログラムを引き続き充実させてまいります。

「食」を担う企業だからこそできる 「食育活動」

「食育活動」は食品企業だからこそできる社会貢献活動のひとつであり、伊藤ハムのCSR活動の重要な一環であると考えております。伊藤ハムは「伝えていきたい食べるよろこび」を食育活動のメインメッセージとして「食育」に関するさまざまな活動に取り組んでおりますが、新たに「食育推進委員会」を設置、目的別に社会貢献チーム、営業支援チーム、社内啓蒙チームの3チームを編成し、それぞれの目的に応じた具体的なプランニングを行って、食育活動を充実させてまいります。

ボランティア活動を通じた「社会貢献」

伊藤ハムグループは企業が地域社会に貢献するためには、従業員の地域社会への帰属意識と地域社会活動に対する積極的な参画意識を高めることが重要であると認識しております。伊藤ハムでは従業員の社会

貢献活動への積極的な参加を促すために、ボランティア体験学習やボランティアセミナーを開催するとともに、ボランティア休暇制度やボランティア表彰制度を充実させ、従業員のボランティア活動への参画意識の高揚を図っております。

具体的活動例を挙げますと、六甲山の森を守り育てることを目的とした「こうべ森の学校」の活動や東京都八王子市における「高尾の森づくりの会」の活動に従業員がボランティアとして参加して、間伐・植樹作業のお手伝いをしております。

一方、開発途上国の子どもの支援を行う趣旨に賛同し、2008年度よりユニセフとタイアップして弊社製品の販売数量に応じて、ユニセフを通じて寄付を行う方式で「タンザニア支援プロジェクト」の取り組みを継続しております。

地球温暖化防止のために

伊藤ハムグループでは地球温暖化防止、二酸化炭素の排出量削減を企業の社会的責任を果たす重要な指標と位置づけ、省エネルギー・省資源の推進、廃棄物の削減とリサイクルの推進、温室効果ガスの排出削減など、さまざまな環境負荷低減活動に積極的に取り組むとともに、全生産施設を対象として、中期環境目標を定め、達成に向け日々努力を重ねております。具体的には、省エネルギー対策の一環として、生産施設の冷凍機を高効率タイプに更新する、照明器具を省エネタイプに更新する、蒸気配管に保温ジャケットを設置



代表取締役社長

堀尾 守

するなど、省資源対策の一環として、蒸気ドレン水を回収してボイラー用水に再利用するなどを実施いたしました。

社会に信頼される企業であり続けるために

伊藤ハムグループが行っている社会貢献プログラムのいくつかをご紹介させていただきましたが、社会性のない企業は存続し得ないという認識のもと、今後も多方面にわたってさまざまな課題にチャレンジし社会貢献活動や食育活動を継続することによって、伊藤ハムグループ全体が真に社会から信頼される企業であり続けることを目指して全力でまい進いたします。

伊藤ハムグループが実施いたします社会貢献活動や環境保全活動などにつきましては、今後ともこの「CSR報告書」にて幅広く情報開示を行ってまいります。

この「CSR報告書」を通じて、伊藤ハムグループの活動内容とその結果に対するステークホルダーの皆様のご理解と忌憚のないご意見・ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

2010年11月





事業分野はもちろんのこと、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組み、明るく元気いっぱいの輝く企業を目指します。

経営方針

① コンプライアンス体制のさらなる充実など経営品質を高める

② お客様目線での商品開発を伴うマーケティングを強化する

高級感・おいしさ・食べやすさ・健康などいろいろな切り口で商品・サービスを提供し、価値訴求型顧客層の需要を生み出す

③ 国内外の生産基地配置の見直しを含む構造改革を進める

同時に生産・営業・食肉・各部門における業務改革でコスト競争力を強化し、業務用商品・PB商品・価格訴求型顧客層に対応する

スローガン アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーを目指す

社 是

事業を通じて社会に奉仕する

企 業 理 念

1. 使命

伊藤ハムグループは価値ある商品・サービスを提供することで、健全な生活の基盤となる「食べる」ことの喜びや楽しさ、大切さを伝えてまいります。

2. 経営姿勢

- コンプライアンス（企業倫理の遵守）を徹底し、透明性の高い経営を行うことで、社会から信頼される企業を目指してまいります。
- お客様に「安全」で「安心」な商品をお届けいたします。
- 環境にやさしい企業活動を推進いたします。
- 社員は会社の大切な財産です。能力主義・成果主義を重視し、何事にもチャレンジする活力ある職場を目指してまいります。

3. 行動規範

- あらゆる法令や会社の規則を遵守し、社会良識に沿って行動します。
- 議論は自由闊達、且つ徹底的に行い、決めた事はすぐに実行し最後までやり遂げます。
- 慣習にとらわれず、常に新しい発想で、自主的に行動します。
- 「強く 正しく 逞しく」の伝統精神のもと、自己責任原則を徹底します。

企業姿勢 3C

Creative …… 食文化を創造しつづける・クリエイティブ

Communication …… あたたかみのあるコミュニケーション

Challenge …… 新たな挑戦・チャレンジ

コンプライアンス

ステークホルダーの皆様からの信頼を高め、健全で誠実な企業経営を行ううえで守るべき考え方を「企業倫理規範」として策定しています。企業価値の向上のために

は、企業倫理の高い公正な企業経営を徹底することが基本であると考え、コンプライアンス（企業倫理の遵守）の強化に取り組んでいます。

コンプライアンスの意味と目的

●コンプライアンスとは…

一般的には「法令遵守」を意味しますが、伊藤ハムグループでは「企業倫理の遵守」と定義します。

●コンプライアンスの目的…

経営方針に沿って、会社および役員・従業員等が企業活動を円滑に行ううえで、遵守すべき普遍的な考え方を規定し、その実践によって企業価値の向上を目指すとともに社会的貢献に努め企業の永続性を図ることです。

企業倫理規範（コンプライアンスの原則）

1. 公正な行動

伊藤ハムグループは、会社が社会の公器であるとの自覚と責任のもと、常に社会的良識に沿って公正に行動します。

2. 倫理観と遵法の精神

常に遵法を心がけ、確固たる倫理観をもって誠実に事業活動を行います。

3. 関係法令の社内徹底

事業活動に必要な関係法令の収集とその理解に努め、その遵守を確実にするため、社内規程の制定と教育・アナウンスなどを通じて社内徹底を図ります。

4. 法令違反の早期是正と厳正対処

業務遂行活動が関係法令や社会的良識に反する場合は、速やかにその違反状態を是正し、再発防止に努めるとともに、違反行為に対して厳正に対処します。



コンプライアンス・ハンドブック

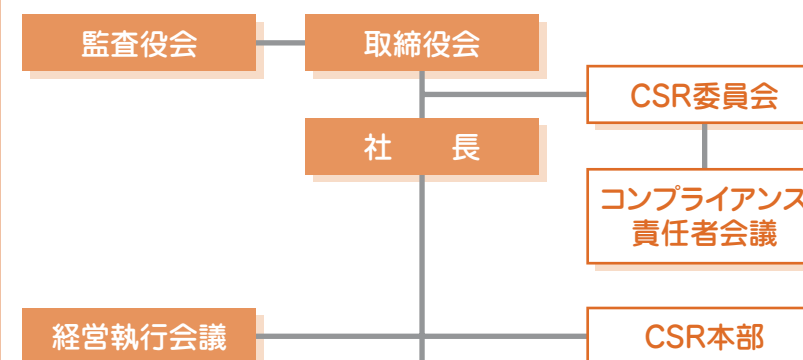
組織

伊藤ハムグループでは、CSR本部が中核となってコンプライアンスを推進しています。

CSR本部の目的は、伊藤ハムグループの役員をはじめ、全従業員のコンプライアンスに対するさらなる意識向上、並びに実践の企業風土を徹底浸透させるとともに、内部監査体制の強化・拡充です。

本部長は「コンプライアンス違反行為に対しては社長代行として改善指示が出来る権限」を持ち、その責任は「監査等を通じた問題点の早期発見・社長及び取締役会への報告／現場への改善指示／是正プロセス及び結果の確認と社長及び取締役会への報告」となります。

【CSR推進組織図】



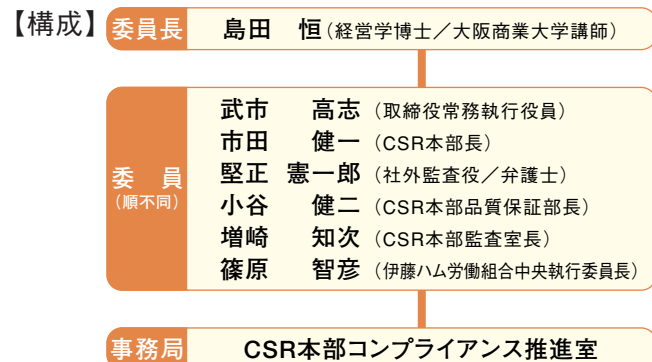
【推進活動内容に対する基本的な考え方】

- ・ 社会的な常識を正しく認識するための情報提供と指導
- ・ 社内の問題点を早期に発見し、改善につなげるための積極的な活動
- ・ 社内各事業本部（本部）機能、管理部門の連携
- ・ 特定の部署や個人が情報を囲い込むことがないよう、風通し良く開かれた組織風土、企業体質の確立
- ・ 社内外の声を真摯に聞く、開かれた姿勢
- ・ マイナス情報を含めた積極的な社内外への情報発信による説明責任の履行

CSR委員会とコンプライアンス責任者会議

◆CSR委員会

【役割】第三者の目でCSR体制をチェックし、その結果を取締役に提言します。



◆コンプライアンス責任者会議

【役割】各部署での課題・問題を全社で共有します。



コンプライアンスに関する規程の整備

コンプライアンスに関するルールを明確化し、従業員に周知するためにコンプライアンスに関する規程の整備を進めています。

コンプライアンス推進規程	コンプライアンスの実践やコンプライアンス推進体制などについて定めています。
社内通報規程	相談窓口の対応手順や通報・相談者の保護などについて定めています。
内部者取引管理規程	証券取引および関連法規に違反する内部者取引を未然に防止するために、役職員の職務に関して取得した未公表の内部情報(重要事実と同義)の管理、役職員の株式等の売買その他の取引および役職員の職務に際して遵守すべき基本的事項を定めています。
個人情報取扱規程	個人情報の取得、保管、利用、廃棄のプロセスを定めています。

情報セキュリティの維持・向上

伊藤ハムグループは、全役員並びに全従業員のIT利用に関して、「伊藤ハムグループIT利用規則」を定め、法令・社内の諸規程および社会倫理に反する利用や、お客様を含めた一般社会に不利益を与える利用を厳しく禁じています。同時に、事業活動にかかわる情報資産のセキュリティ確保および個人情報保護による社会的責任を果たすために、情報技術の進歩や業務環境の変化等も考慮しながら、情報資産にかかわるリスクを継続的に評価し、情報セキュリティ全般の維持・向上に努めています。

従業員教育

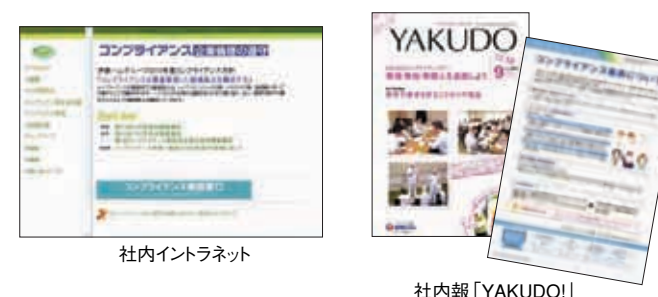
従業員のCSRやコンプライアンスに対する意識・関心を高め、行動に結びつけるために、CSR講習会、新入社員研修、階層別研修や部門研修、所長会議や店長会議など、さまざまな場面でコンプライアンスについての教育を行っています。



研修風景

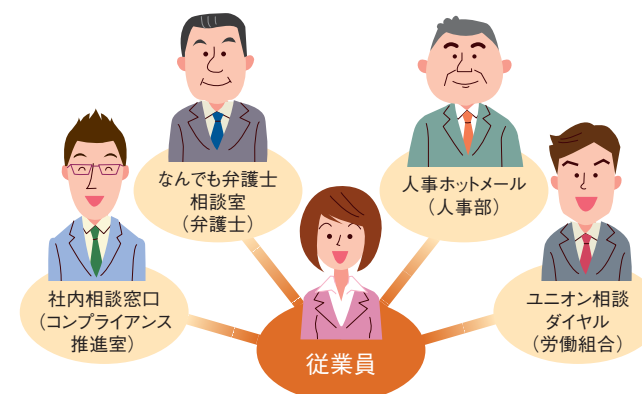
適切な情報の開示および共有化

従業員にコンプライアンス・マインドを浸透させ、日常業務の中で実践するために、周知・啓発活動を行っていますが、効果を高めるために社内イントラネットや社内報を使ってコンプライアンスに関する情報を開示しています。



相談窓口の設置

違法行為、社内ルール違反や社会的良識からの逸脱を見かけたり、疑問を感じた場合には、まず上司に報告することを基本としています。しかし、それが難しく従業員がコンプライアンスに関することで困ったとき、悩んだときの相談先として次のような窓口を設置しています。



また、社外からの窓口として、ホームページとお客さま相談室(フリーダイヤル:0120-011186)を設置しています。



コンプライアンスカード

コンプライアンスデー

従業員のコンプライアンス・マインドのさらなる浸透と定着を図るために、毎年9月1日を「コンプライアンスデー」と定め、標語の募集、アンケートの実施やポスターの掲示を行っています。

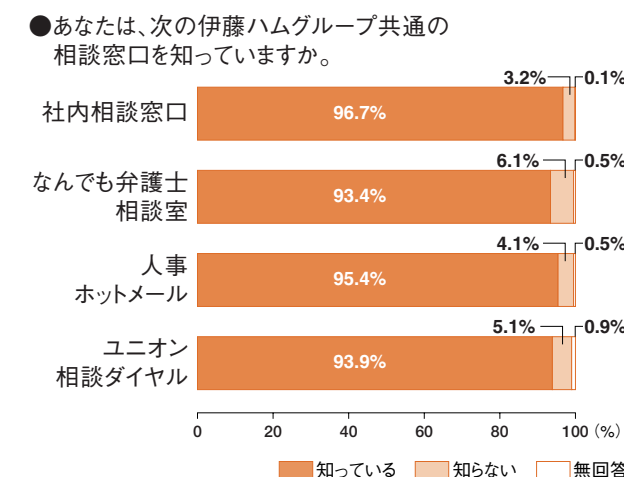


ポスター

意識調査の実施

コンプライアンス・マインドの浸透状況を把握し、推進活動に役立てるとともに、従業員にその結果を報告し、各職場での実践につなげています。

【第8回コンプライアンス意識調査結果(正社員対象)】(抜粋)



目的：コンプライアンスの浸透状況を把握し、今後の活動に生かすため
 期間：2009年10月26日～11月20日
 対象：伊藤ハムグループに所属する社員番号末桁7、8の正社員

トピックス

「コンプライアンス委員制度」スタート

コンプライアンスをより確実なものにするための「コンプライアンス委員制度」がスタートしました。

全国で165名のコンプライアンス委員が任命され、職場に根付いたコンプライアンスを推進するための活動を行っています。各委員は、研修を受けながら、担当職域内でコンプライアンスに関する周知や、従業員からの相談受付など、さまざまな活動を行っています。



「コンプライアンス委員制度」キックオフミーティング

【委員の仕事】

- 委員自らコンプライアンスに関するチェック機能を果たします。
- 従業員からの相談を受け付けます。
- 職場長の補佐としてルールの周知徹底を行います。





消費者の皆様とともに

消費者の皆様「安全」で「安心」な商品をお届けし、食べることへの喜びや楽しさ、大切さをお伝えするために、さまざまな取り組みを行っています。

安全・安心への取り組み

牛肉のトレーサビリティ

お客様に安全とともに安心をお届けするために、「安全・安心システム(トレーサビリティシステム)」を導入し、牛肉のトレーサビリティ(生産・流通履歴の確保)に取り組んでいます。詳しくはホームページをご覧ください。



トレーサビリティのホームページ

<http://www.itoham.co.jp/farm/anzen/tracea/index.html>

ISO22000の取り組み

伊藤ハムでは、2005年12月にグループ会社であるサンキョーミート(株)有明ミート工場が食肉業界で初となるISO22000を認証取得したのをはじめ、食肉事業部門の全生産事業所でISO22000の認証を取得しました。ISO22000は、品質管理の国際規格であるISO9001をベースとして、工程管理にHACCP(総合衛生管理製造過程)を取り入れて食品安全に特化した国際規格です。



ISO22000適合証明証

○ 認証取得事業所一覧 **P35**

お客様の視点に立った食品表示への取り組み

食品表示は、お客様にとって非常に重要な情報です。伊藤ハムグループでは、生産・販売している各食品について、関係法規を遵守し、かつ、お客様にできるだけ分かりやすく表示するように取り組んでいます。

近年、特に表示事項が複雑化し、さまざまな表示基準の改正が行われていることにかんがみ、CSR本部品質保証部では定期的に表示研修会を開催して社員の知識向上を図っています。

また、表示の法令遵守はもとより、伊藤ハムブランドの商品パッケージの表示・デザインについては、定期的に営業部門、生産部門、商品開発部門、仕入れ部門、品質管理部門によるミーティングを行い、よりお客様の視点に立った表示・デザインへの改訂に努めています。

品質保証監査

CSR本部品質保証部では、お客様に安全・安心な商品を提供するために、伊藤ハムグループの各生産工場、販売・物流拠点が適正に運用されているか等について、定期的、臨時的な監査・点検を実施しています。

特に、ハム・ソーセージなどの食肉製品の主力生産工場については、厚生労働省承認のHACCP(総合衛生管理製造過程)の基準で、適正に運用生産されているか等について、各工場の品質管理部門と連携して、監査・点検を実施しています。

また、従来より他社に先駆け、伊藤ハムグループの各営業所・物流・販売店舗の監査、および社外協力工場についても、新規取引開始時の工場審査、取引開始後の定期監査等を実施し、各商品の品質・安全性を確認・検証しました。



品質保証監査

お客様の声の反映

もっとおいしくコミュニティ

「もっとおいしくコミュニティ」は、“お客様の視点からの自由な発想によるご意見”によって弊社商品をもっと良い商品にすることを目的として、2004年11月よりスタートしました。

メンバーの皆様には、グループインタビューやアンケート調査に参加していただき、そのご意見を商品の開発や改良のアイデアにつなげています。



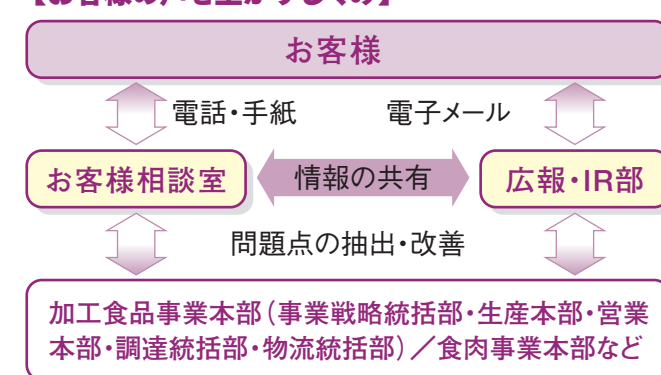
「もっとおいしくコミュニティ」グループインタビュー

お客様相談室

伊藤ハムグループお客様相談室では、お客様からのお問い合わせ・ご意見を、電話や手紙、電子メールで受け付けています。

特にお問い合わせには、電話で内容を詳しく伺い、誠意ある対応を迅速に行うことを心がけています。また、ご指摘いただいた内容については、関係部門と情報を共有し、問題点の抽出・改善に努めています。

【お客様の声を生かすしくみ】



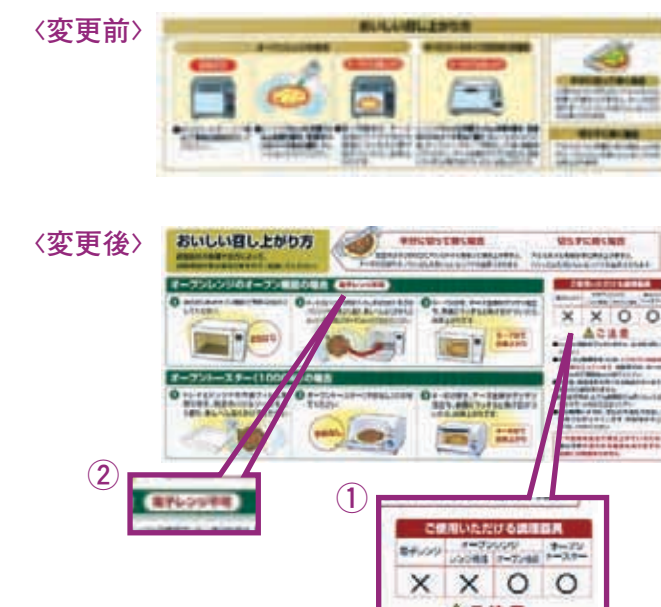
お客様の声を製品に反映

お客様相談室ではお客様からお寄せいただいたご意見やご指摘を「お客様の声」として取りまとめ、社内関係部署に伝え、商品の改善、開発に役立てています。

【調理器具を分かりやすく表示】

ラ・ピッツァシリーズで「電子レンジで加熱したら、カチカチになってしまった。調理方法に書いてある絵は電子レンジではないのですか?」とのお客様の声が多くありましたので、下記のように表示を変更しました。

- ①「ご使用いただける調理器具」を分かりやすく○×で表示しました。
- ②赤文字で「電子レンジ不可」の注意を入れました。





食育

2005年に「食育基本法」が公布されてから「食」への関心が高まり、企業や学校、地域でさまざまな取り組みが行われています。伊藤ハムでは2007年1月、「食育

に関する基本理念」を制定。「食」に携わる企業として、食べることの喜びや楽しさ、大切さを伝える活動を積極的に展開しています。

「食育」に関する基本理念

食育活動理念

伊藤ハムは、健全な生活の基礎となる「食」の大切さや楽しさを伝え、今、求められている「家族揃っての食事」が、語らいや団らんを育むことを伝えてまいります

メインメッセージ

伝えていきたい
食べるよろこび

食育活動方針

- 安全・安心で良質なたんぱく質を提供します
- 正しい食習慣をサポートします
- 貴重な食資源を大切にします
- 楽しい食文化を発信します

コーポレートメッセージ あふれる笑顔

お客様の「あふれる笑顔」を実現させるために、食育活動を推進してまいります



食育活動のテーマ

1 1日の活力源である朝食を肉製品や食肉を使って食べることを提案してまいります

2 食肉や肉製品のバランスの良い食べ方を提案してまいります

3 食の大切さ、健全な食生活に役立つ情報を楽しくわかりやすくお伝えしてまいります

4 伊藤ハムグループ社内の食育に対する啓蒙活動を進めます

食育推進委員会の設置

伊藤ハムの食育活動をさらに積極的に進めていくために、2009年より社内公募を含めたメンバーによる「食育推進委員会」を設置。社会貢献・営業支援・社内啓

蒙の各チームごとに活動の具体的なプランニングを行い、実践しています。

社会貢献チーム

活動目的

- 子どもの「食」に対する興味・関心を高めてまいります。
- 健全な食生活が保てるように、体験活動を通じて「食」に関する知識、「食」を選択する力を伝えてまいります。

営業支援チーム

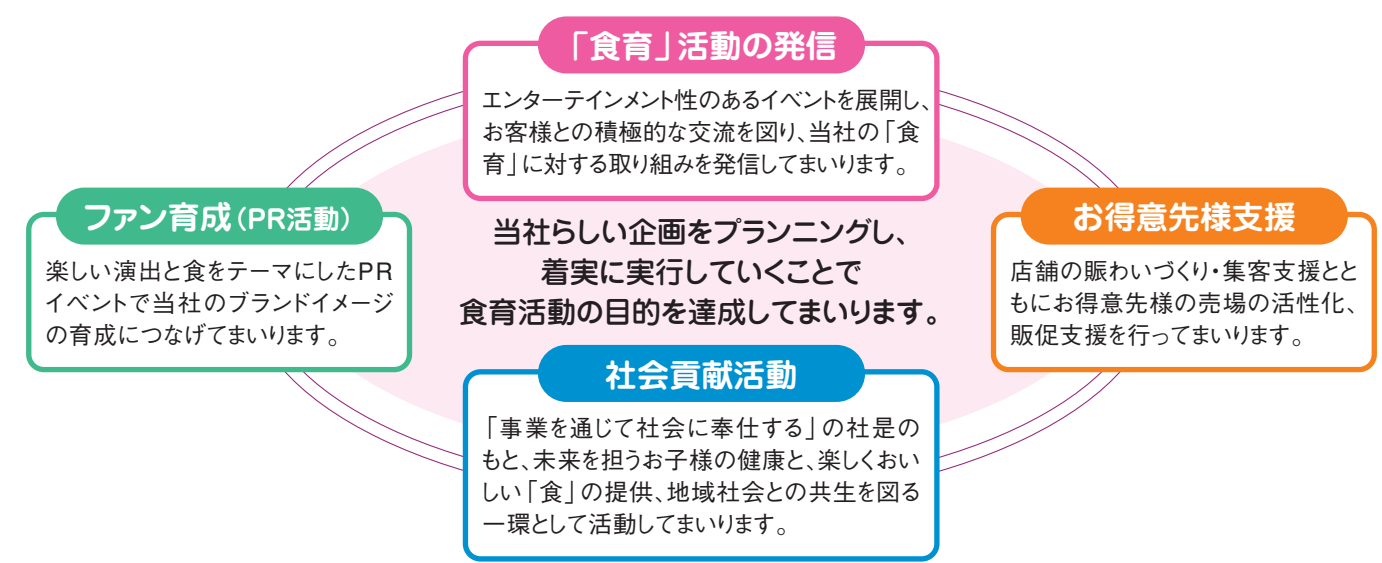
活動目的

伊藤ハムの食育活動を“お得意先様と一緒に”伝えてまいります。

社内啓蒙チーム

活動目的

〈当社の食育活動を社内に啓蒙することにより〉従業員が食育活動を認知・理解し、関心を抱くことを目指してまいります。また、従業員が食育活動に参画しやすい環境（風土）を整えてまいります。



活動例

スマイルキャラバン

田植え体験

ウイナーの飾り切り教室

手作りウイナー教室

宮澤真理さんのお絵かきお弁当教室

など



株主・投資家様とともに

株主・投資家の皆様に株主還元を実施するとともに、長期的な企業価値の向上を目指し、経営情報を開示します。

企業情報開示・IR活動

伊藤ハムではさまざまな機会やメディアを通じて、株主や投資家の皆様への適時適正な情報開示に努めています。

ホームページによる情報開示

伊藤ハムではホームページにおいて、適時適正な情報開示に努めています。

「伊藤ハム」ホームページ
<http://www.itoham.co.jp>
 「株主・投資家の皆様へ」
 ホームページ
<http://www.itoham.co.jp/corporate/ir/syaze.html>



ホームページ画面

株主様向け報告書の発行

株主様向け報告書として、年次報告書および中間報告書を年に1回ずつ発行し、財務情報などをタイムリーにお伝えしています。



第70期年次報告書

決算説明会

決算および第2四半期決算発表後、アナリスト・機関投資家様などを対象に決算説明会を開催しています。説明会資料については、ホームページにも掲載しています。

アニュアルレポートの作成

英文のアニュアルレポートを作成し、海外の投資家・アナリスト様に送付しています。

開かれた株主総会を目指して

近年、会社を取り巻く社会情勢がめまぐるしく変化している中、株主総会は経営方針を決定する場としてその重要性がさらに高まっています。

伊藤ハムでは最高意思決定機関である株主総会を、株主の皆様と直接、意見を交換できる貴重な場と位置づけ、開かれた総会となる運営を目指しています。この一環として、事業報告と計算書類などの報告においては、ナレーションと映像を用いて、株主の皆様により理解していただけるよう努めています。

質疑応答においては、さまざまな視点からのご質問や貴重なご意見をいただき、それぞれに誠意を持って回答しています。



第70回 定時株主総会

株主優待制度

伊藤ハムでは、株主の皆様に感謝の意を表すとともに、伊藤ハムの製品をより身近に感じていただくことを目的として、株式1,000株以上保有の株主様に対して、年1回（時期6月）、5,000円相当の製品を贈呈する、株主優待を実施しています。



株主優待品（2010年6月送付）

社会貢献活動



伊藤ハムグループの社は「事業を通じて社会に奉仕する」の精神のもと、地球環境への配慮と、地域社会との共生を目指して、社会貢献活動に取り組んでいます。

ユニセフ支援

- タンザニア支援プロジェクト
- 従業員募金活動
- ハンド・イン・ハンドに参加
- カタログ商品の購入
- 外国コイン募金活動

ボランティア支援

- 社会貢献推進期間
- ボランティア体験イベント
- 社会貢献表彰
- ボランティア休暇制度
- ボランティアセミナー
- 社会貢献活動パネル展

社会貢献活動の取り組み

自然環境保護

- こうべ森の学校
- 高尾の森づくりの会
- 全国各地のクリーンアップ活動
- 環境学習出前授業
- 甲山周辺の里山保全活動

地域社会貢献

- 全国の工場、営業所周辺の清掃活動
- “食とeco” わくわく探検隊
- 被災地救済支援活動
- 健康ひょうご21県民運動への支援
- 工場見学とウイナー手づくり体験



ユニセフ支援活動



自然環境保護活動



地域社会貢献活動



自然環境保護活動



伊藤ハムの社会貢献活動のことをもっと詳しく知りたいのですが、どうすればいいの？



社会貢献活動の詳細な情報は弊社ホームページでお知らせしています。お手数ですが、弊社ホームページにアクセスしてみてください。
 ◆伊藤ハム社会貢献活動への取り組みHP <http://www.itoham.co.jp/corporate/citizen/index.html>



ユニセフ支援活動

タンザニア支援プロジェクト

タンザニア・ザンジバルの5歳未満の子ども全員（20万人）を対象としたユニセフの栄養事業を支援しています。2008年・2009年の2年間で当初予定額の2倍の3,605万7,493円をユニセフに寄付しました。寄付金が倍増したことにより、ユニセフが現地での活動規模を拡大して栄養事業を実施しています。



従業員募金活動

従業員募金と、その同額を会社が寄付するマッチングギフトを実施しています。



街頭募金活動

ユニセフ全国募金イベント「ハンド・イン・ハンド」に参加しています。



上記以外に「外国コイン募金」や「ユニセフ商品の購入」も実施しています。

ボランティア支援活動

社会貢献表彰

顕著な社会貢献活動を継続して実施している従業員を表彰する制度を設けています。



ボランティア休暇制度

ボランティア活動に参加する場合、休暇を取得できる「ボランティア休暇制度」を設けています。

社会貢献イベントに従業員がスタッフとして参加

各地で行う社会貢献イベントに、従業員がボランティアでスタッフとして参加しています。



ボランティア入門講座

従業員のボランティア意識向上と、社会貢献活動への参加を促すために、「ボランティア入門講座」を開催しています。

自然環境保護活動

森林保護活動

従業員がボランティアとして森林保護活動に参加しています。

●こうべ森の学校・神戸



●高尾の森づくりの会・東京



地域社会貢献活動

“食とeco”わくわく探検隊

食べ物と環境のかかわり、自然環境と生命の大切さを伝えることを目的に実施しています。



クリーンアップ活動

延べ2,677人がクリーンアップ活動に参加しています。



- | | |
|---------------------|-----------------|
| ●クリーンアップ石狩新港浜 | ●目黒川クリーン大作戦 |
| ●石狩湾新港地域クリーン作戦 | ●東京バイククリーン大作戦 |
| ●国道4号線清掃 | ●梅田川ふれあいクリーン作戦 |
| ●伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン | ●クリーンアップin甲子園浜 |
| ●小矢部市530（ゴミゼロ）運動 | ●基山町クリーンアップ作戦 |
| ●クリーン作戦「増森に住んでよかった」 | ●鳥栖商工団地早朝クリーン作戦 |
| ●大堀川の水辺清掃 | ●捨てちゃい缶バイ!作戦 |
| ●船橋ベイエリアをきれいにする日 | ●轟木川清掃 |
| ●ふなばし三番瀬クリーンアップ | ●全国主要事業所周辺清掃活動 |

「ハム工場を学ぼう」・西宮

「食」に対する興味・関心を高めることを目的に実施しています。



手作りウインナー教室・東京

朝食の大切さと、栄養バランスの良い食べ方を伝えることを目的に実施しています。





従業員とともに

従業員は会社の大切な財産です。何事にもチャレンジする活力ある職場、安全で安心して働ける職場環境の実現を目指します。

人材の育成・雇用

人材の育成

伊藤ハムグループでは、従業員個々の能力開発を目的とした「次世代リーダー育成プログラム」「キャリア開発プログラム」「部門別教育プログラム」と、これを組織の成果へとつなげるための質の高いマネジメント風土の醸成を目的とした「マネジメントプログラム」の4つの人材育成プログラムを用意しています。従業員一人ひとりの成長と組織の発展をともに実現することがその狙いです。

また、教育研修の多くは応募型を採用しており、高い成長意欲を持つ従業員に対し積極的に学習の門戸を開いています。



研修を通じて女性従業員のキャリア開発にも力を注いでいます

次世代リーダー育成プログラム	階層別リーダー育成研修
キャリア開発プログラム	新入社員研修・フォロー（入社1～3年目）研修
	階層別キャリアチャレンジ研修
	キャリアデザイン研修（女性社員対象）
部門別教育プログラム	自己申告制度・社内公募制度
マネジメントプログラム	部門別スキルアップ研修
	マネジメントスキル研修（役職者対象）
	新任管理職研修・新任役職者研修
	レビュー者研修（女性社員の上司対象）
その他プログラム	目標管理制度
	通信教育制度（382講座）
	語学受験講座・資格取得補助

障害者雇用の促進

障害者雇用率は、2010年6月1日時点で1.94%（法定雇用率1.8%）となっています。（2010年7月1日より障害者雇用促進法が改正され、短時間労働者が雇用率の算定の基礎にカウントされることとなったため、施行日時点での雇用率は1.9%となっています）

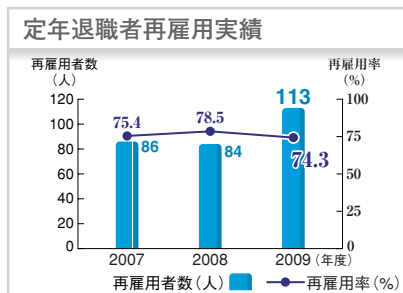
伊藤ハムは、1993年に法定雇用率（当時は1.6%）を上回って以来、現在まで雇用率を維持し続け、その間「兵庫県障害者雇用促進協会会長賞」「兵庫県知事賞」「日本障害者雇用促進協会会長賞」を受賞しています。

今後とも、障害者が安心して働くことのできる環境・風土づくりになお一層取り組んでいくと同時に、法定雇用率に達していないグループ会社の雇用率向上に向け、各会社が主体性を持って適用業務の整備・拡大を図りつつ、採用活動を続けていく地盤づくりに積極的に取り組んでいきます。

定年退職者再雇用制度の拡充

定年退職後も働く意志があり、引き続き勤労者として社会に貢献したいと考えている従業員に気持ちよく働いてもらうことは、従業員、会社および社会にとって大きなメリットがあるとの認識のもと、2006年に、従来の「定年再雇用制度」を拡充し、定年を迎える1年前（非正社員は半年前）に本人の意志を確認したうえで、最長65歳まで再雇用を継続する制度を導入しました。再雇用期間は1年ごとの契約とし、毎年継続就業の意志確認を行っています。勤務形態は、従業員本人の希望をできるだけ汲み入れ、契約時間等に関して柔軟に対応しています。

また、2008年4月より、それまで再雇用嘱託と呼称していた資格名を「シニア社員」に改め、再雇用のみでなく60歳を超えた新規採用を進めるなど、少子高齢化に対応した制度運用を目指しています。



仕事と育児の両立を支援

最長2年間の育児休暇期間を安心して過ごし、スムーズに職場復帰ができるよう、2007年に「育児休暇取得者職場復帰支援プログラム」を導入しました。また、「短時間・時差勤務制度」および「フレックスタイム制度」、さらには養育する子どもが病気や怪我をしたときに取得できる「家族ケア休暇」など、職場復帰後の負担軽減を目的とした制度を導入して子育てを支援しています。

2005年4月1日に制定された「次世代育成支援対策推進法」をうけ、すべての従業員が能力を発揮できるような職場環境の整備と、育児休暇などの諸制度の充実を図ることを柱とした、「第一次次世代育成支援行動計画」を策定・実施し、2007年7月に「基準適合一般事業主」の認定を受けました。

さらに、2007年4月1日からは「第二次次世代育成支援行動計画」、2009年4月1日からは「第三次次世代育成支援行動計画」と、段階的に支援強化、制度拡充に努めています。



労働安全衛生

労働安全衛生管理基本方針（2010年度）

- ①労働安全衛生に関する法規制を遵守し、従業員の安全と健康を確保します。
- ②労働安全衛生管理基本方針を周知し、従業員の協力を得て労働安全衛生活動に取り組みます。
- ③従業員が労働安全衛生の高い意識を持ち、労働安全衛生を優先した作業が行えるように、繰り返し労働安全衛生教育を行います。
- ④リスクアセスメントにより、作業及び作業環境の危険性・有害性を明確にすると共に、危険有害要因を除去し、労働災害と健康障害の未然防止に努めます。
- ⑤構内協力会社との連携、情報交換を十分に行い、構内協力会社と一体となった総合的な労働安全衛生管理に努めます。

中央安全衛生委員会

伊藤ハムグループの一体的な安全衛生活動を行うために、毎年期初に部門代表者で構成される中央安全衛生委員会を開催しています。委員会では年度の「労働安全衛生管理基本方針」を審議・承認し、これに従って、グループ全社で安全衛生活動を進めていきます。



2010年度中央安全衛生委員会

安全衛生教育

新入社員の入社時集合研修では、安全に仕事をするための基本を身につけるために、「安全衛生の基本」の講義を行っています。また、生産工場では、リスクアセスメント研修会を開催し、監督者のレベルアップを図るとともに職場の安全確保と意識向上に取り組んでいます。



リスクアセスメント研修会

健康管理

健康情報

心身の健康はお客様に信頼していただける仕事をするために必要不可欠です。伊藤ハム健康保険組合では、健康診断、人間ドッグ、がん検診やメンタルヘルス、禁煙推進、ウォーキング大会などの健康対策を推進するとともに関連情報を、広報誌「きらり」やホームページを利用して従業員とその家族に向けて発信しています。

安全衛生監査

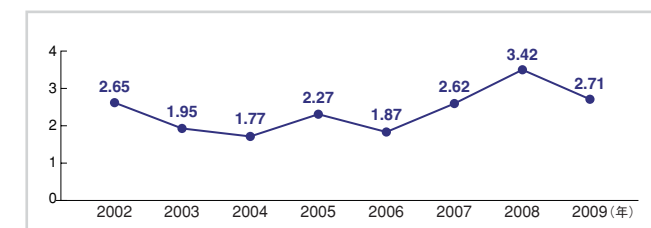
安全衛生監査計画に基づいて、「遵法取り組みの徹底」と「労働災害や職業性疾病の発生防止」を目的に、CSR本部環境安全推進課と本部スタッフで構成する監査チームが、書類監査とプラント監査からなる監査プログラムに基づいて、事業場の監査を行い、継続的な改善活動に努めています。2009年度は47事業場の監査を行い、遵法の指導と危険有害要因の改善に取り組みました。



プラント監査

千人率の推移

伊藤ハムグループ（休業4日以上労働災害）



千人率とは…労働者1,000人当たり、1年間に発生する死傷者を示すもの。

心のほっとライン

従業員とその家族を対象としたメンタルヘルス全般の対策として、「医療法人あけぼの会メンタルヘルスセンター」と提携し、専門的な支援を受けることができる従業員支援プログラムを導入しています。



社内事務所のポスター





環境保全活動

地球環境を保全するために、省エネルギーや省資源、リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めています。

環境宣言

弊社は創業以来「事業を通じて社会に奉仕する」ことを社是として、食品の安全と品質の向上に努め、食文化と社会の発展に寄与してまいりました。

一方、1980年代後半から環境問題が地球規模となり、経営の新しいパラダイムが求められてまいりました。私たちはこの変化に対応し、継続的な環境保全と自然との調和・共生に配慮した事業活動を通じて、経営品質の高揚を図るべく新たに環境にかかわる基本理念を掲げ、全従業員が一丸となった活動を展開することを宣言します。

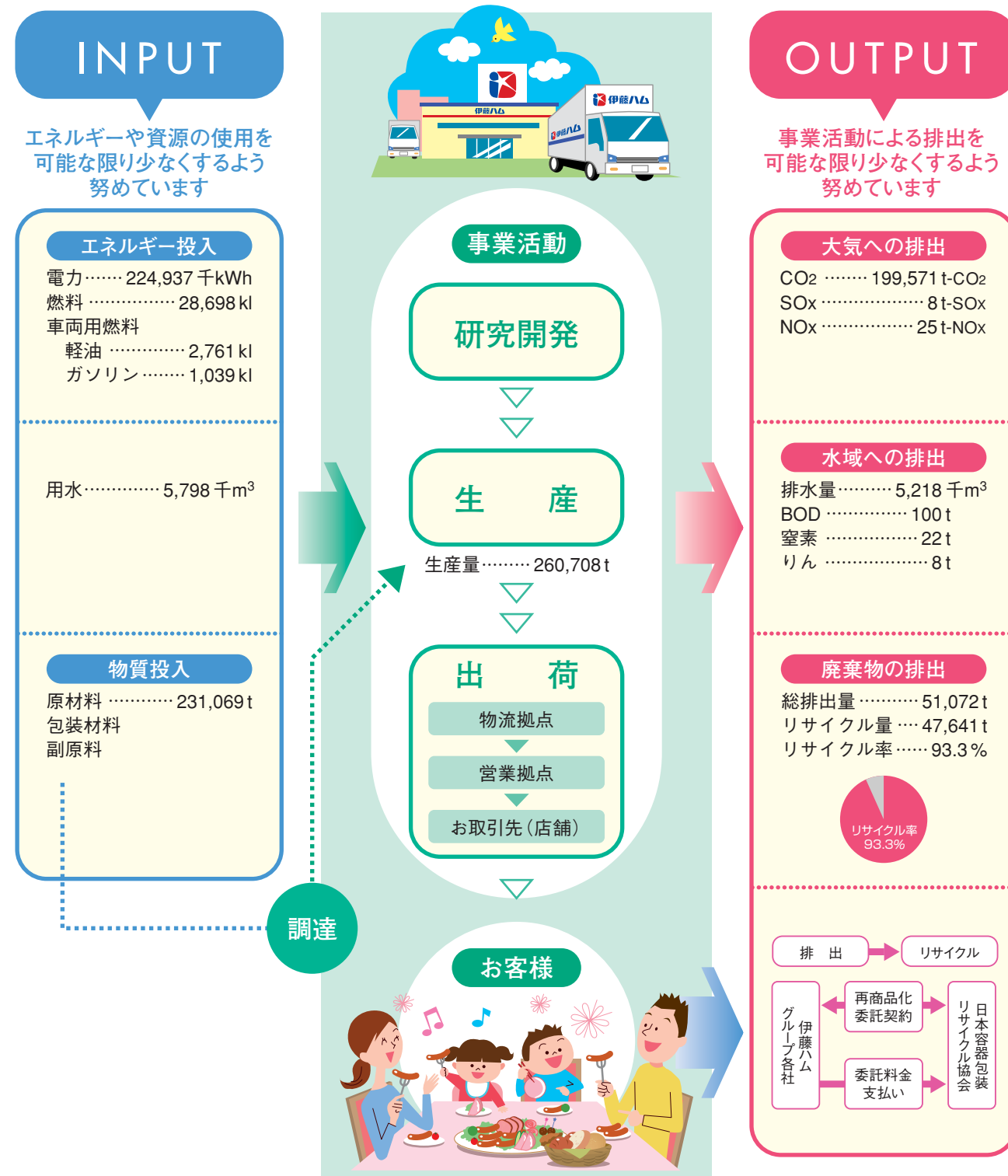
基本理念

私たちは地球規模の環境保全が、人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、事業活動を通じて環境に配慮し、その保全と社会との共生を図る努力を持続的に実践してまいります。

行動指針

1. 開発から使用・廃棄に至るすべての過程で環境影響に十分配慮した商品、及びサービスの開発推進を行います。
2. 環境に及ぼす影響を考慮し、環境目的・目標を定め、定期見直しにより環境保全の継続的改善を図ります。
3. 環境関連法・規制・条例・協定を遵守し、自主管理基準を定め環境保全活動に努めます。
4. 省エネルギー、省資源、及び廃棄物・温暖化物質・オゾン層破壊物質の排出削減を図るとともに、廃棄物の資源リサイクルを推進し、循環型社会形成の対応と地球環境負荷低減に努めます。
5. 外部・内部監査を定期に実施し、自主管理の徹底を図ります。
6. 社内外の環境教育及び社内広報活動を通じて、従業員に環境基本方針の理解と環境保全意識の向上を図ります。
7. 海外事業活動において、当事国における環境保全に十分配慮します。
8. 環境基本方針及び環境保全と活動結果について、CSR報告書により情報開示します。

環境負荷の全体像



対象範囲

■伊藤ハム(株)/九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場、中部LC、本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所
 ■伊藤ハムデイリー(株)/東北、小樽各工場、営業部 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場
 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍 ■サンキョーミート(株)/有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部 ■IHミートパッカー(株)/関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)/九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株)
 ■(株)藤栄 ■ロイヤルデリカ(株)/本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水/本社工場、サッポロファクトリー ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムミート販売東(株)
 ■伊藤ハムミート販売西(株) ■伊藤ハム物流(株)



工場の作業場で清掃に使用された水は、どう処理しているの？



作業場から排水管を経て、廃水処理設備に流れます。そこで汚濁物と水を分離、法律や条令で定められた排水基準まで浄化した後、下水道や河川などへ放流しています。汚濁物(汚泥)は廃棄物処理施設に搬送し、土壌改良剤等にリサイクルしています。

第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価

「第3次中期環境目標」の最終年度である2009年度は照明器具を省エネタイプに更新する、冷凍機・空調設備を高効率タイプに更新する、蒸気ドレン水の再

利用、ボイラー用清缶剤容器の再使用などを実施し、次の通りの結果となりました。

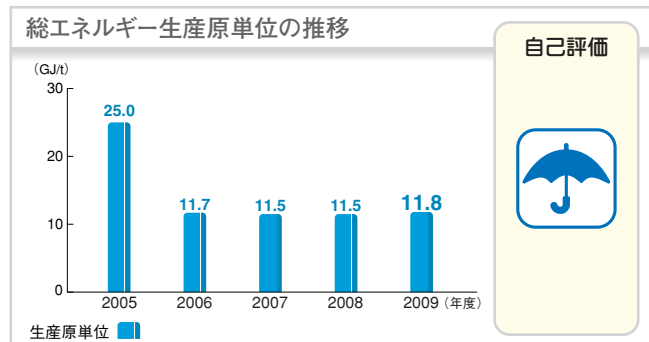
【第3次中期環境目標】

項 目		指 標	基準年度 (2006年度)	2009年度目標値		2009年度結果		評価
				数値	増減	数値	増減	
1) 省エネルギー、省資源の推進		・総エネルギー使用量 (GJ/t) ・用水使用量 (m³/t)	11.7 22.9	11.3 22.2	▲3% ▲3%	11.8 22.1	0.7% ▲3.5%	 
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進		・廃棄物排出量 (kg/t) ・リサイクル率 (%)	126 89.2	122 100.0	▲3% 10.8ポイント	193 94.4	53.7% 5.2ポイント	 
3) 温室効果ガスの排出削減		・二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (kg-CO₂/t)	687	666	▲3%	679	▲1.2%	
4) グリーン購入の推進	金額ベース	・事務用品のグリーン購入率 (%)	93.8	100.0	6.2ポイント	98.5	4.7ポイント	
	数量ベース	・事務機器のグリーン購入率 (%)	98.0	100.0	2.0ポイント	100.0	2.0ポイント	
5) 環境管理体制の充実		・グループ会社のISO14001認証取得推進 ・環境監査の継続実施						

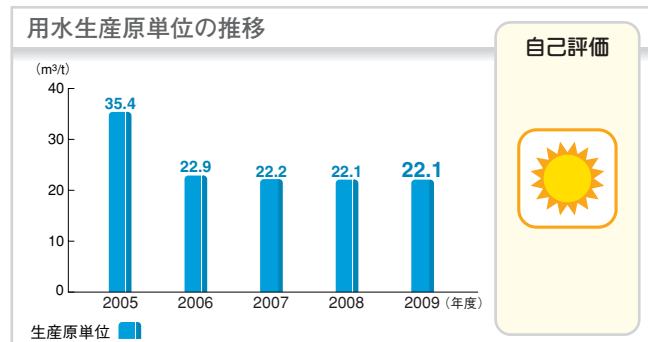
※1)～3)は生産原単位 ※総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) 5)は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

1 省エネルギー、省資源の推進

総エネルギー生産原単位は **0.7% 増加**しました。

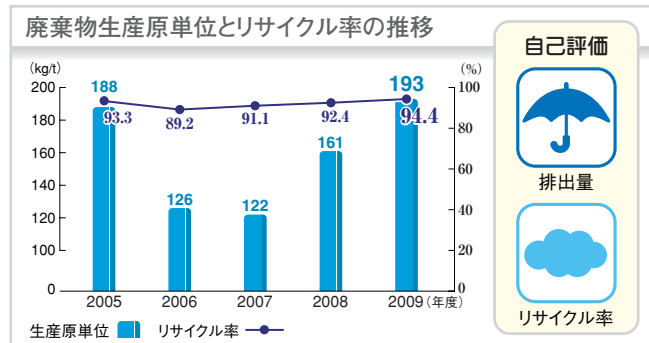


用水生産原単位は **3.5% 減少**しました。



2 廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物生産原単位は **53.7% 増加**。
リサイクル率は **5.2ポイント 高め**ました。

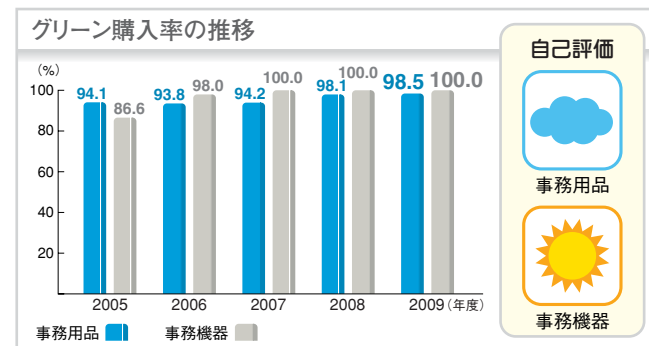


*2008年度、2009年度は廃棄物の種類の集計範囲を増やしたために、生産原単位は大幅に増加しました。

【2006～2009年度】2006年度より対象範囲を広げました。■伊藤 ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■(株)大龍(2007年度より) ■(株)藤栄(2007年度より) 【2005年度】■伊藤 ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場

4 グリーン購入の推進

事務用品のグリーン購入率を **4.7ポイント 高め**ました。事務機器は **2.0ポイント 高め**ました。



5 環境管理体制の充実

ISO14001の認証取得を進めるとともに、環境監査を実施し、問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。

項 目	2009年度の結果
ISO 14001	4社 (IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)、沖縄フレッシュバック(株)、(株)藤栄)で認証取得 (累計17事業所) IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)は統合認証
環境監査	47事業所で実施

■自己評価

-  2009年度の実績が目標値の100%以上でした。
-  2009年度の実績値が目標値を下回りましたが、基準年度より改善されました。
-  2009年度の実績が基準年度を下回りました。継続して、より一層取り組みを進めます。

第4次中期環境目標

「第3次中期環境目標」に基づく取り組みは2010年3月末で一区切りがつかしました。目標設定当時とは生産量や生産品目など、さまざまな変化がありました。2010年4月からは、「第4次中期環境目標」の達成を目指して、全従業員が一丸となって環境負荷低減活動を進めています。「第4次中期環境目標」は、2009

年度を基準年度とし、2010年度から2012年度までの3年で総エネルギー使用量、用水使用量、廃棄物排出量、二酸化炭素排出量をそれぞれ生産原単位で3%削減するとともに、リサイクル率、グリーン購入率を100%にすることを目標としています。

項 目	指 標	目標年度 2012年度	単年度目標		
			2010年度	2011年度	2012年度
1) 省エネルギー、省資源の推進	・総エネルギー使用量 (GJ/t) ・用水使用量 (m³/t)	▲3% ▲3%	▲1% ▲1%	▲1% ▲1%	▲1% ▲1%
2) 廃棄物の削減とリサイクルの推進	・廃棄物排出量 (kg/t) ・リサイクル率 (%)	▲3% 100.0	▲1% 100.0	▲1% 100.0	▲1% 100.0
3) 温室効果ガスの排出削減	・二酸化炭素 (CO₂) 排出量 (kg-CO₂/t)	▲3%	▲1%	▲1%	▲1%
4) グリーン購入の推進	金額ベース	・事務用品のグリーン購入率 (%)	100.0	100.0	100.0
	数量ベース	・事務機器のグリーン購入率 (%)	100.0	100.0	100.0
5) 環境管理体制の充実	・グループ会社のISO14001認証取得推進 ・環境監査の継続実施				

※1)～3)は生産原単位 ※総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気) 5)は単年度目標は設定していません。継続して推進、実施します。

【2007～2009年度】2007年度より対象範囲を広げました。■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 (4) ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカデッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2009年度より) 【2005～2006年度】 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場



2009年度の活動ハイライト

伊藤ハムグループでは、事業活動における環境負荷を低減し、持続可能な社会の構築に貢献するために、さ

環境監査の実施

監査計画に基づいて環境監査を実施しています。問題点の早期発見、早期是正に取り組んでいます。



環境監査（船橋工場）



環境監査
（伊藤ハムデイリー（株）東北工場）

詳しくは **P24**

省エネルギーの取り組み

省エネタイプの照明器具へ更新する、天井にセラニウム板を設置して蛍光灯使用本数を削減する、高効率タイプの冷凍機に更新するなど、省エネルギーの取り組みを進めています。



省エネタイプの照明器具とセラニウム板
（伊藤ハムデイリー（株）東北工場）

詳しくは **P26**

関連会社4社がISO14001を認証取得

IHミートパッカー（株）、IHミートソリューション（株）、沖縄フレッシュパック（株）、（株）藤栄で、ISO14001を認証取得しました。



ISO14001適合証明証（沖縄フレッシュパック（株））

詳しくは **P25、P35**

緊急時の対応訓練の実施

生産工場などでは、環境汚染や環境事故などの突発的事態の発生に備え、定期的に訓練を実施しています。



汚泥の漏洩対応訓練（西宮工場）

詳しくは **P25、P35**

燃料転換による温室効果ガスの排出削減

ボイラーの燃料を灯油からLPガスに変更し、二酸化炭素排出量を削減しています。



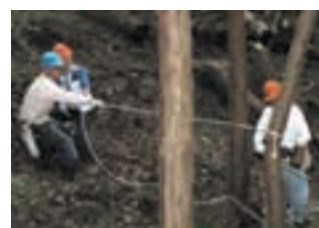
灯油からLPガスに燃料転換したボイラー、LPガス貯蔵設備
（IHミートパッカー（株）宮城ミートセンター）

詳しくは **P28**



環境ボランティア体験学習

ボランティアへの参加意識を高めるために、従業員とその家族を対象として、自主プログラムによるボランティア体験活動を定期的に開催しています。



課外授業「こうぼ森の学校」



クリーンアップin甲子園浜

詳しくは **P32**

マネジメント

環境保全活動の効果を高め、持続可能な社会の構築に貢献していくために、環境マネジメントシステムを

構築し、運用しています。

環境マネジメントの推進組織

環境マネジメントを推進し、資源やエネルギー、廃棄物問題などに対して、迅速かつ円滑に対応できるような環境管理体制を構築しています。環境基本方針や目標設

定などの全社的な事項は「環境委員会」で審議・決定しています。



環境監査の実施

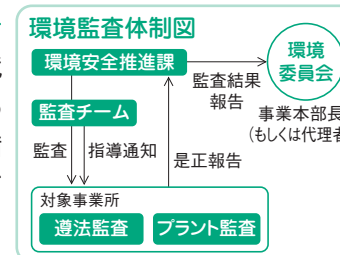
事業所内で実施する内部環境監査のほかに、環境汚染や環境事故を防止し、環境保全活動のより一層のレベルアップを図るために、CSR本部環境安全推進課と本部スタッフで構成する環境監査チームが、年度の計画に基づいて主要事業所の監査を実施しています。2009年度は、合計47事業所の監査を実施しました。

監査項目

- 環境関連法遵守状況、公害防止管理、廃棄物管理、化学物質管理、環境パフォーマンス管理など

監査結果

- 廃棄物管理や環境関連施設にかかわる届出事項に一部不備がありましたが、すべては正しました。



ISO14001認証取得

環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を実施するために、国際標準規格であるISO14001を認証取得しています。2009年度は、新たに食肉部門の関連会社であるIHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)、沖縄フレッシュパック(株)、(株)藤栄の合計4社がISO14001を認証取得しました。

○認証取得事業所一覧 **P35**

グリーン購入

「グリーン購入基本方針」と「グリーン購入ガイドライン」を制定し、省エネルギー・省資源など、環境に配慮した物品の優先的な購入に取り組んでいます。今後も環境に配慮した物品購入に取り組んでいきます。



○グリーン購入一覧 **P37**

関係法規および法の遵守

事業活動にかかわる環境関連法や各地域での環境保全協定などの遵守はもちろんのこと、事業所ごとにより厳しい自主基準値を設けて、遵守状況を管理しています。さらにCSR本部環境安全推進課などによる「環境監査」を実施し、法令の遵守に万全を期しています。

伊藤ハムグループの事業所に適用される環境関連法の主なものには次のようなものがあります。

- 大気汚染防止法
- 水質汚濁防止法
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)
- 食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)
- 資源の有効な利用の促進に関する法律(リサイクル法)
- 容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(フロン回収破壊法)
- 特定の化学物質の環境への排出量等の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)
- エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネルギー法)
- 地球温暖化対策の推進に関する法律(地球温暖化対策推進法)
- 労働安全衛生法
- 自治体との環境保全協定 など

環境管理へのお問い合わせ

2009年度は次のようなお問い合わせをいただきました。お問い合わせに対してはその都度、迅速に対応しています。対応策実施後、効果を確認し、先様に報告しご理解をいただいています。

	内 容	対応策
騒音のお問い合わせ	工場警備室前で待機しているトラックからの騒音が気になる。	トラックのエンジンや冷凍機から発生する騒音であるため、警備室前にトラックを停車することを禁止し、工場の警備員がトラックを工場内へ誘導するようにしました。
	工場からのモーター音のような騒音が気になる。	排気ファン、冷却ファンのベアリングから発生している騒音と特定。すぐにファンを停止しました。その後、ベアリングの修理を実施しました。
臭いのお問い合わせ	工場からの臭気が気になる。	汚泥搬出時の臭気と特定。汚泥を搬出する際にカーテンを引いて、脱臭装置で臭気を引くとともに、積み込み時に消臭剤を散布するようにしました。

緊急時の対応策

事業所の管理範囲外や敷地外への環境汚染や事故などの突発的事態を想定し、影響の拡散を防ぎ汚染を最小限にするとともに、早期に修復するために、環境マネジメントシステムの緊急時の処置手順に沿って、定期的に訓練を実施しています。万一事故が発生したときには、社内間での連絡と地域住民、行政機関への連絡を円滑に行うため、「環境関連の緊急時連絡システム」を運用しています。

○緊急時の対応訓練一覧 **P35**



廃油の漏洩対応訓練(東京工場)



薬品の漏洩対応訓練(西宮工場)

環境負荷低減の取り組み

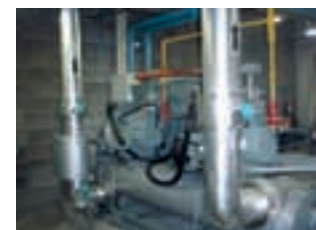
伊藤ハムグループでは、電力・燃料・用水の使用量や温室効果ガス、廃棄物の排出量を削減するために、さまざまな取り組みを実践しています。2009年度に実施した

各部門の主な環境負荷低減の取り組みは次のとおりです。

生産部門

省エネルギーの取り組み(電力、燃料使用量の削減対策)

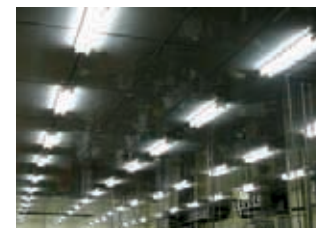
- 省エネタイプの照明器具に更新するとともに、天井にセラニウム板を設置し、蛍光灯使用本数を削減しました。
- 蒸気配管に保温ジャケットを装着しました。
- 冷凍機・空調設備を高効率タイプに更新しました。
- LED照明器具を採用しました。



高効率冷凍機(九州工場)



蒸気配管保温ジャケット(豊橋工場)

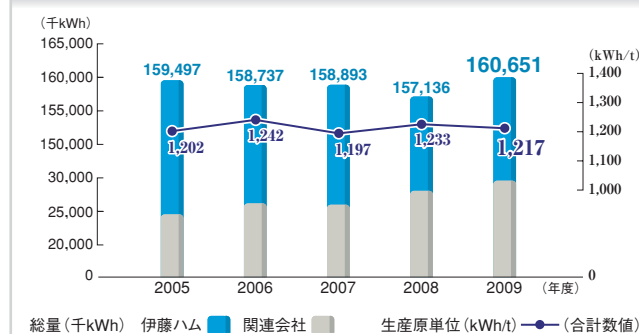


省エネタイプの照明器具とセラニウム板
(伊藤ハムデイリー(株)東北工場)

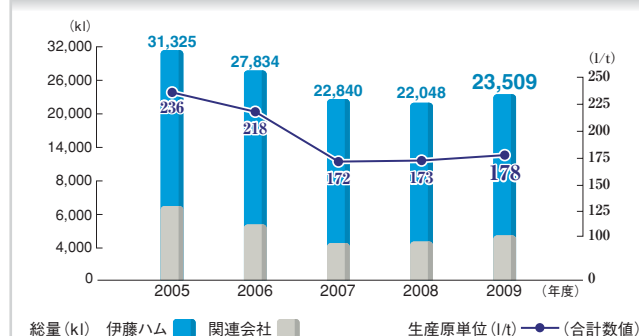


高効率空調設備
(伊藤ハム食品(株)小矢部工場)

電力使用量の推移



燃料使用量の推移



用水使用量の削減対策

- 蒸気ドレン水を回収して、ボイラー用水に再利用しました。
- 冷却水を再利用しました。

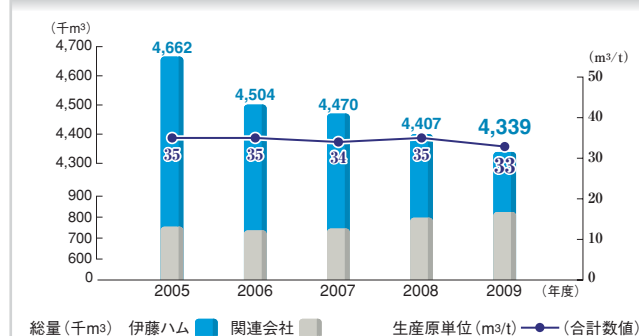


蒸気ドレン水貯留タンク(西宮工場)



ボイラー槽とドレン水回収配管(豊橋工場)

用水使用量の推移



廃棄物の削減と有効利用

- 廃ポリシートをマテリアルリサイクルしました。
- ボイラー用清缶剤を使用後、その容器を業者に返送し、容器を繰り返し使用することによって、廃棄物を削減しました。
- 加熱ラインから発生するチップ灰を回収し、りんご園で土壌改良剤として有効利用しました。

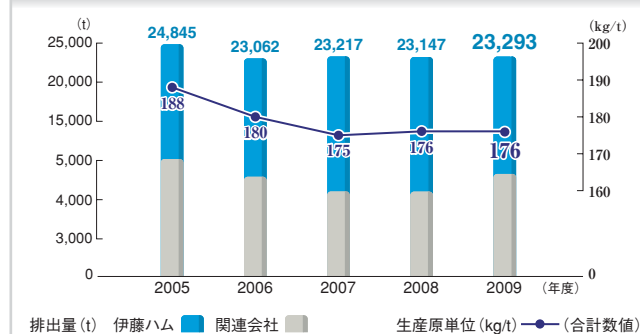


廃ポリシート洗浄機（西宮工場）

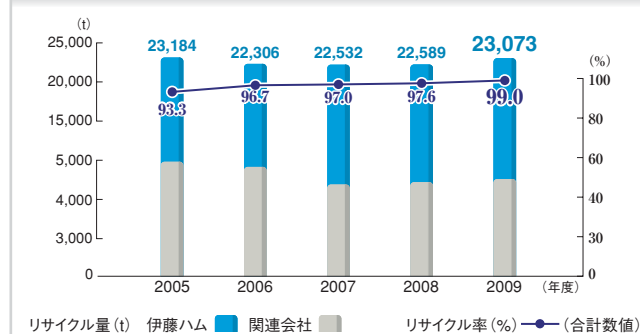


ボイラー用清缶剤容器
（伊藤ハム食品（株）小矢部工場）

廃棄物の排出量の推移

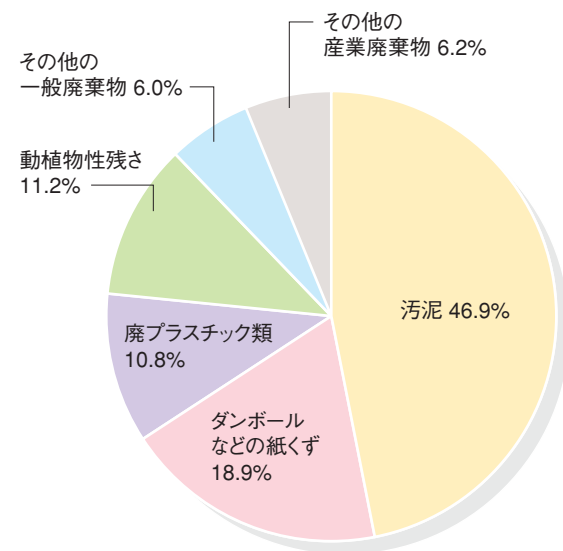


リサイクル量とリサイクル率の推移



廃棄物の排出量の割合

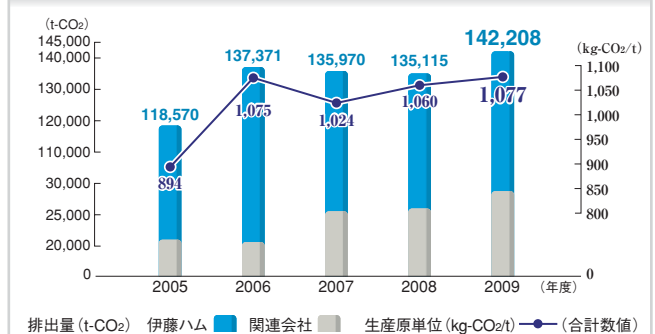
- 生産工場から排出される廃棄物の割合は以下のとおりです。



温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- フロンガスの漏洩を削減するために、定期的に冷凍設備などの点検を実施しています。
- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、迅速な対応を実践しています。

二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移



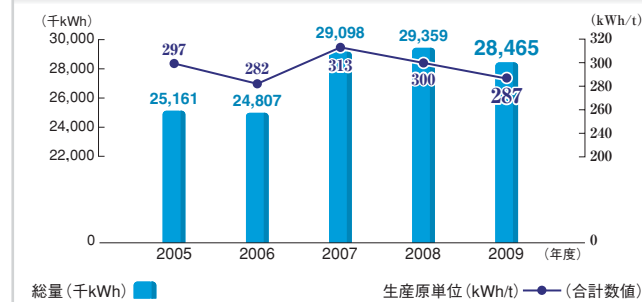
*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に関する排出係数が高くなっています。

食肉部門

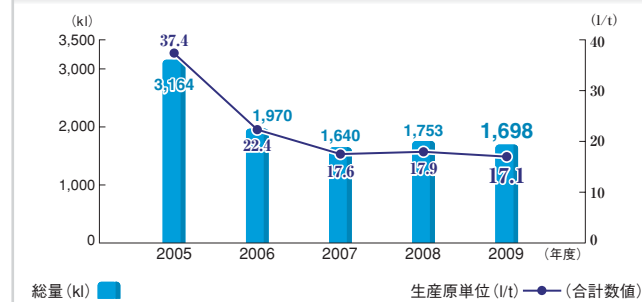
省エネルギーの取り組み （電力、燃料使用量の削減対策）

- 冷やしすぎることがないように、冷蔵庫や空調機の温度設定をこまめに調整しました。
- 冷凍機を高効率タイプに更新しました。
- 使用していない動力機械や作業をしていない作業場の照明のスイッチをこまめに切るようにしました。

電力使用量の推移



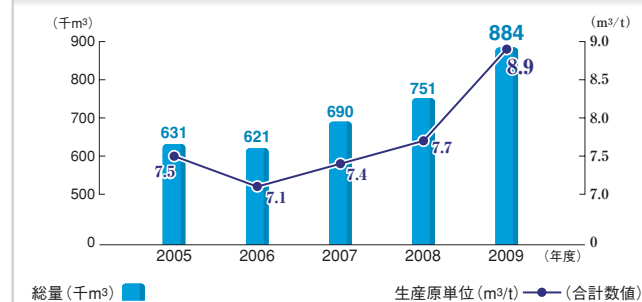
燃料使用量の推移



用水使用量の削減対策

- 清掃時には、必要以上に水を流すことがないように、蛇口の開閉をこまめに調整しました。

用水使用量の推移

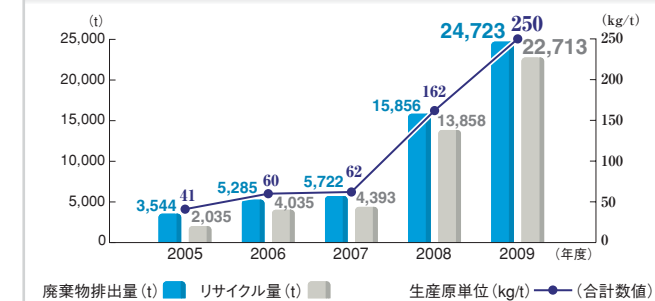


対象範囲 ■サンキューミート（株）有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部 ■IHミートバッカー（株）関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション（株）九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック（株） ■（株）藤栄（2007年度より）

廃棄物の削減と有効利用

- 梱包の作業ミスを低減するなど、廃棄物の発生を抑制するとともに、廃棄物の分別を徹底し、リサイクルを進めました。

廃棄物排出量とリサイクル量の推移



*2008年度、2009年度は廃棄物の種類の集計範囲を増やしたために大幅に増加しました。

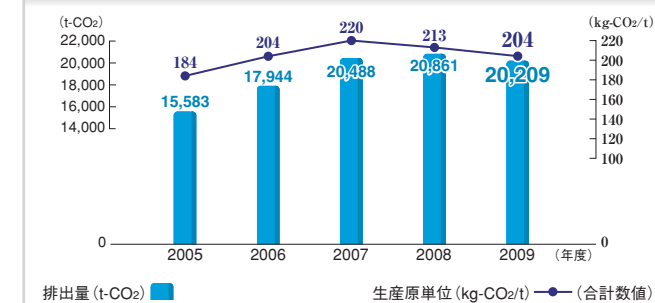
温室効果ガスや水質汚濁物質の排出削減

- ボイラーの燃料を灯油から二酸化炭素排出係数の低いLPガスに変更し、二酸化炭素排出量を削減しました。
- 排気ガスや排水は規制値より厳しい自主基準値を定めて管理し、異常の早期発見、迅速な対応を実践しています。



灯油からLPガスに燃料転換したボイラー、LPガス貯蔵設備
（IHミートバッカー（株）宮城ミートセンター）

二酸化炭素 (CO₂) の排出量の推移



*2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に関する排出係数が高くなっています。

対象範囲 (ハム・ソーセージ類、調理加工食品等の生産工場)
【2006～2009年度】 ■伊藤ハム（株）九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデリー（株）東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品（株）小矢部工場 ■浅草ハム（株）関東工場 ■ハーバーデリカッセン（株）四日市工場 ■筑紫ファクトリー（株）北九州工場 ■（株）大龍（2007年度より）
【2005年度】 ■伊藤ハム（株）九州、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデリー（株）東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品（株）小矢部工場

物流・営業部門

省エネルギー、二酸化炭素排出量削減の取り組み（電力、燃料使用量の削減対策）

- 積み合わせ輸送・混送便の利用、輸送量に応じた適正車種の選択、輸送ルートの見直しなど、輸送効率を向上させました。
- 保有車両の低公害車（低燃費、低排出ガス自動車、アイドリングストップ機能搭載車、ハイブリッド車など）への転換を進めました。
- 製品を効率的に配送するために、物流拠点の見直しを実施しました。
- ドライバーの運転マナーおよびエコドライブ実践意識を向上させるために、エコドライブ講習を実施しました。
- 車両にエコドライブステッカーを貼り付け、従業員の意識啓発を行い、エコドライブの実践を強化しました。

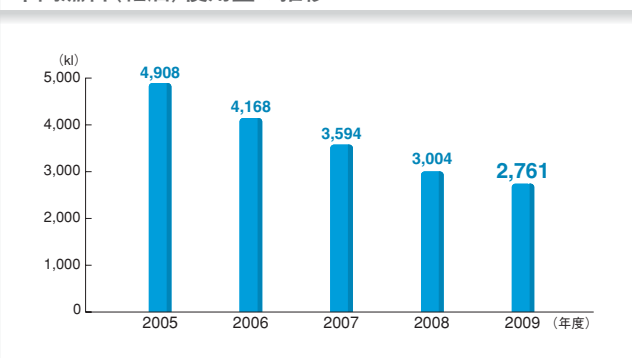


車両の後部（左写真）と車内に貼り付けられたステッカー

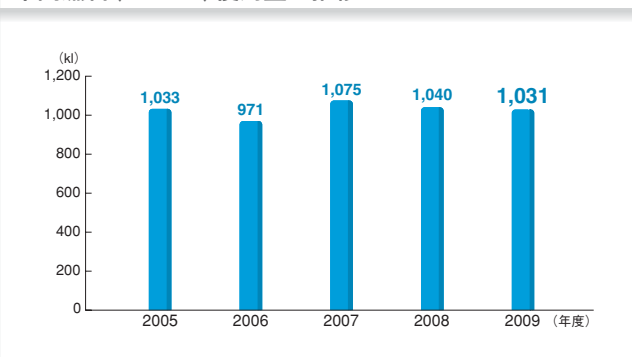


「エコドライブ実施中」ステッカー

車両燃料（軽油）使用量の推移



車両燃料（ガソリン）使用量の推移



エコドライブ講習

廃棄物の削減対策

- 過剰在庫とならないように、適正量の発注を心がけ、売れ残りなどの食品廃棄物の発生抑制に努めています。
- サンプルを無駄にしないように、適正量のサンプルを手配するように努めています。

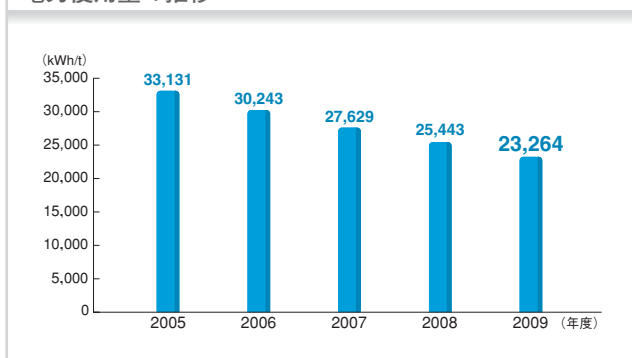
対象範囲 ■伊藤ハム（株）本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所 ■伊藤ハムデイリー（株）営業部 ■伊藤ハム販売（株）
■伊藤ハムミート販売東（株） ■伊藤ハムミート販売西（株） ■伊藤ハム物流（株）

オフィス部門

省エネルギーの取り組み（電力、燃料使用量の削減対策）

- 省エネタイプの蛍光灯への切り替えを進めるとともに、こまめな消灯を実施しています。
- 会議室など、使用後は、その都度こまめに空調機の電源を切り、節電しています。
- 少人数が勤務する時間帯は、従業員が働く区域に限り照明を点灯する、空調を効かせるようにしています。

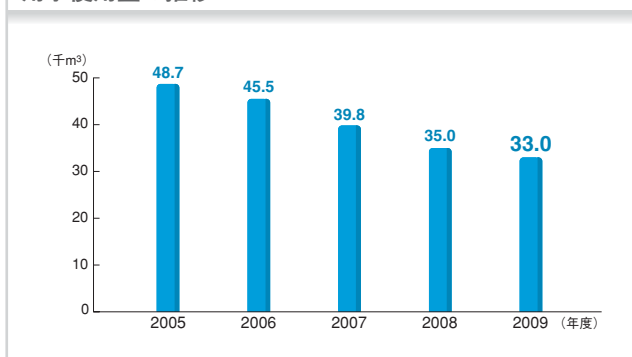
電力使用量の推移



用水使用量の削減

- 給湯室で水を使用する際は、こまめに蛇口を閉めるようにし、節水しています。
- 食器等を洗う際は、洗い桶に水を溜めて洗うようにしています。

用水使用量の推移



対象範囲（電力使用量、用水使用量）
■伊藤ハム（株）本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所、中部LC
■伊藤ハムデイリー（株）営業部
■伊藤ハム販売（株） ■伊藤ハムミート販売東（株）
■伊藤ハムミート販売西（株） ■伊藤ハム物流（株）

グリーン購入

- 文具、事務用紙、事務機器類のグリーン購入に取り組んでいます。

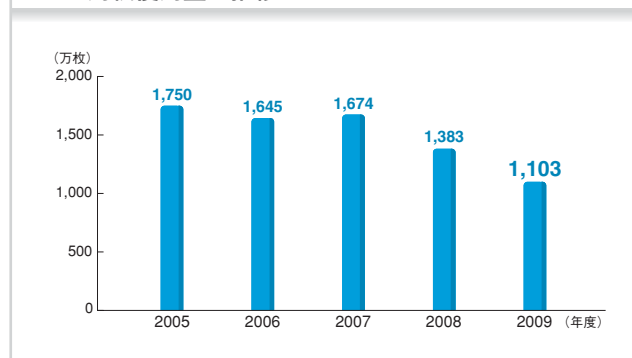
グリーン購入率の推移



コピー用紙の使用量削減

- 裏面の利用、両面印刷や縮小レイアウト印刷など、コピー機の特長機能を有効活用しました。
- データの電子化をよりいっそう進め、データの印刷を控えました。

コピー用紙使用量の推移



対象範囲（グリーン購入率、コピー用紙使用量）
■伊藤ハム（株）本社事務所、東京事務所

廃棄物の3R推進

- 常日頃から3Rを実施していますが、「3R推進月間」である10月はポスターを掲示し3Rの実践を強化しました。

* 3R: Reduce (リデュース: 廃棄物の発生抑制)、Reuse (リユース: 再使用)、Recycle (リサイクル: 再生利用)



「3R推進月間」ポスター



環境情報開示

伊藤ハムは、環境問題への取り組み姿勢や環境保全活動について、社内外へ情報発信することは企業の果たすべき責任であると考えています。CSR報告書や

CSR報告書の発行

環境保全への取り組みをご理解いただくために、2000年からCSR報告書を発行しています。主な配布先は、お客様、企業、行政機関、学校、学生、従業員などです。

CSR報告書は来社されたお客様が自由に閲覧、お持帰りいただけるようにしています。

弊社ホームページでも開示しています。

※2000年はエコレポートとして発行、2001年～2004年は環境報告書として発行、2005年～2007年は社会・環境報告書として発行、2008年よりCSR報告書として発行



商品展示会

毎年1回(2009年を除く)、商品展示会を開催しています。その際、お得意先に伊藤ハムの環境保全活動、社会活動に関する理解を深めていただくために、環境・社会活動に関する取り組みを紹介しています。

ホームページなどを通じて、積極的に情報を開示しています。

ホームページ

ホームページ上に「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設し、幅広く環境保全活動について情報を開示しています。CSR報告書のほか、エコピックスによる最新の環境活動の紹介やCSR報告書の請求もできるようになっています。また、お客様からのご意見やご感想などをお寄せいただくために、専用のメールアドレスを設けています。

ホームページ : <http://www.itoham.co.jp>
専用メール : eco@itoham.co.jp



従業員教育・地域とのコミュニケーション

「地球にやさしい」企業風土の醸成、従業員一人ひとりの環境保全意識を高めるために、社内外の環境教育と社内啓発活動を実施しています。また、ボランティア活

環境教育

- 新入社員の環境教育
- 環境マネジメントシステム教育
- 工場における一般教育・専門教育
- 営業部門におけるエコドライブ教育
- 社内報「YAKUDO! (躍動)」に環境関連記事を掲載
- 職場に「環境情報掲示板」を設置
- 社外の環境教育・セミナーなど



地域との交流

NPO法人「こども環境活動支援協会」(西宮市)の「環境活動支援プロジェクト」に参加するなど、2009年度は2校で環境学習「出前授業」を行いました。



動を通じて環境のことを学ぶ、環境ボランティア体験学習を実施しています。

環境ボランティア体験学習

- 課外授業「こうべ森の学校」



- クリーンアップin甲子園浜



環境情報の開示および共有化

従業員の環境保全に対する意識・関心を高めるために、社内イントラネットを利用して環境に関する情報やデータを開示しています。

社外の方のご意見

こども環境活動支援協会
久世 竜 様



都市近郊の里地里山保全活動の一環として、伊藤ハムさんと当協会が連携して行っているイベント「食とeco」わくわく探検隊は、「食」や「農」を入り口としながら、広い意味での環境活動、環境保全の意義を知っていただく大変良い機会になっていると感じています。参加された方々からは、「家庭で環境のことを考える良いきっかけになった」といった感想もいただいております。今後もこのような活動を通じて、より多くの方々が環境への意識を持っていただけることを願っています。



社会活動や環境活動に対する意見や感想はどうやって伝えればいいの？



社会活動や環境活動に対するご意見やご感想は本報告書に差し込んであるアンケート用紙をご利用のうえお寄せください。また、弊社ホームページ上の「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」内に専用のメールを設けていますので、そちらのフォームを利用していただけます。

環境会計

2001年度より主要生産工場の環境関連に投入したコスト、投入コストに伴う環境保全効果を集計し、環境

経営に利用しています。前期との比較を容易にするため、前期実績と当期実績および増減値を記載しています。

2009年度環境会計の分析

省エネタイプの照明器具への更新、冷凍機の更新などの投資を行いました。また、オープンバーナーや冷凍機の修理などを実施し、事業エリア内コストが増加しました。省エネルギー対策、二酸化炭素排出量削減については、

今後も内容を精査しながら対策を進め効果的な投資を行います。

【環境保全コスト】

(単位:千円)

分 類	主な取り組み内容	投資額			費用額		
		前期	当期	増減	前期	当期	増減
事業エリア内コスト		164,123	251,250	87,127	678,692	933,268	254,576
公害防止コスト	環境関連施設の改善、維持管理	37,000	176,037	139,037	394,958	579,022	184,064
地球環境保全コスト	省エネルギー設備の設置、対策費用	126,964	72,559	▲ 54,405	22,515	76,380	53,865
資源循環コスト	廃棄物のリサイクルおよび処理処分費用	159	2,654	2,495	261,219	277,866	16,647
上・下流コスト	容器包装リサイクル法の再商品化委託料等	0	280	280	343,158	292,296	▲ 50,862
管理活動コスト	EMSの構築、環境保全に係る人件費等	90	440	350	65,039	55,355	▲ 9,684
研究開発コスト		0	0	0	0	0	0
社会活動コスト	緑化・その他環境活動費用	0	245	245	97	9,280	9,183
環境損傷コスト	燃料使用にともなう汚染賦課金	0	0	0	2,288	1,413	▲ 875
合 計		164,213	252,215	88,002	1,089,274	1,291,612	202,338

【環境保全効果】

効果の内容	環境パフォーマンス指標 (単位)	前期	当期	原単位調整効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	2,281,326	2,406,207	▲ 38,191
	電力エネルギー投入量 (GJ)	1,440,123	1,460,285	34,563
	その他燃料投入量 (GJ)	769,165	945,922	▲ 147,528
	用水の投入量 (千m³)	4,291	4,225	229
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量 (t-CO₂)	129,866	136,590	▲ 1,789
	廃棄物総排出量 (t)	21,879	22,660	50
	廃棄物最終処分量 (t)	8	23	▲ 15
	総排水量 (千m³)	3,862	3,803	206
	BOD排出量 (t)	46	74	▲ 26
	SOx排出量 (t)	9	8	1
その他	容器包装使用量 (t)	7,271	6,734	813

※指標の値 原単位調整効果:生産原単位を加味した削減効果
【前期投入量(排出量)×(当期生産量/前期生産量)－当期投入量(排出量)】
当期生産量/前期生産量＝1.038
※エネルギー投入量は、購入電力、燃料、購入熱(蒸気)を熱量換算した値 (GJ)

【環境保全対策にともなう経済効果】

(単位:千円)

効果の内容	総金額	原単位調整金額
収 益		
廃棄物の有価売却による収益	27,610	29,972
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の削減(電力・燃料・購入蒸気)	518,459
	用水に係る費用の削減	▲ 138,651
	廃棄物処理費の削減	▲ 126,828
	20,752	32,009

※指標の値 収 益:当期収益－前期収益
費 用 削 減:前期に対する費用削減額【前期費用－当期費用】
原単位調整金額:生産原単位を加味した収益【前期収益×(当期生産量/前期生産量)－当期収益】
費用削減:生産原単位を加味した費用削減額【前期費用×(当期生産量/前期生産量)－当期費用】
当期生産量/前期生産量＝1.038

集計方法

- 投資額および減価償却費は、100%環境目的のもののほか、環境改善機能を有する生産設備については按分集計しています。
- 環境保全効果については原単位調整効果、経済効果については、効果の総金額と原単位調整金額の両方で集計しました。
- 公表フォーマットは「環境会計ガイドライン(2005年度版)」に沿っています。

2009年度の集計結果

集計期間:2009年4月1日
～2010年3月31日

集計範囲:伊藤ハム株式会社

(九州工場、神戸工場、
六甲工場、西宮工場、
豊橋工場、東京工場、
船橋工場)

伊藤ハムデイリー株式会社
(東北工場、小樽工場)

伊藤ハム食品株式会社
(小矢部工場)

環境データ

部門別の環境負荷

部 門	INPUT	事業活動	OUTPUT
生産部門 (ハム・ソーセージ類、 調理加工食品等)	エネルギー投入 電力 …… 160,651 千kWh 燃料 …… 23,509 kl 用水 …… 4,339 千m³ 物質投入 原材料 …… 106,152 t 包装材料 副原料	ハム・ソーセージ類、 調理加工食品等の 生産 生産量 …… 131,997 t	大気への排出 CO₂ …… 142,208 t-CO₂ SOx …… 8 t NOx …… 25 t 水域への排出 排水量 …… 3,905 千m³ BOD …… 100 t 窒素 …… 22 t りん …… 8 t 廃棄物の排出 総排出量 …… 23,293 t リサイクル量 …… 23,073 t リサイクル率 …… 99.1 %
生産部門 (惣菜、麺類等の 調理加工食品)	エネルギー投入 電力 …… 12,558 千kWh 燃料 …… 3,439 kl 用水 …… 542 千m³ 物質投入 原材料 …… 17,904 t 包装材料 副原料	惣菜、麺類等の 調理加工食品の生産 生産量 …… 29,629 t	大気への排出 CO₂ …… 14,497 t-CO₂ 水域への排出 排水量 …… 488 千m³ 廃棄物の排出 総排出量 …… 2,318 t リサイクル量 …… 1,704 t リサイクル率 …… 73.5 %
食肉部門	エネルギー投入 電力 …… 28,465 千kWh 燃料 …… 1,697 kl 用水 …… 884 千m³ 物質投入 原材料 …… 107,013 t 包装材料 副原料	食肉の処理加工、製造 および包装加工等 生産量 …… 99,082 t	大気への排出 CO₂ …… 20,210 t-CO₂ 水域への排出 排水量 …… 795 千m³ 廃棄物の排出 総排出量 …… 24,723 t リサイクル量 …… 22,713 t リサイクル率 …… 91.9 %
物流・営業、 オフィス部門	エネルギー投入 電力 …… 23,264 千kWh 燃料 …… 52 kl 車両用燃料 軽油 …… 2,761 kl ガソリン …… 1,039 kl 用水 …… 33 千m³	製品の物流 販売 業務全般	大気への排出 (事業所から排出するもの) CO₂ …… 13,011 t-CO₂ 大気への排出 (製品の輸送にともなって排出するもの) CO₂ …… 9,645 t-CO₂ 水域への排出 排水量 …… 30 千m³ 廃棄物の排出 総排出量 …… 740 t リサイクル量 …… 151 t リサイクル率 …… 20.4 %

対象
範囲

【生産部門(ハム・ソーセージ類、調理加工食品等)】■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場
■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍

【生産部門(惣菜、麺類等の調理加工食品)】■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー

【食肉部門】■サンキューミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター
■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■(株)藤栄

【物流・営業、オフィス部門】■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所、中部LC ■伊藤ハムデイリー(株)営業部
■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■伊藤ハム物流(株)

環境対策や環境保全を進めるためにどれだけコストをかけたか、その結果、どんな効果が得られたかなどを、定量的に評価することで、自社の環境保全への取り組みをより効率的で効果の高いものにするための経営管理上の分析ツールのことをいいます。



環境データ

【2009年度 緊急時の対応訓練】

事業所名	訓練の内容	参加者数
伊藤ハム(株)		
九州工場	薬品漏洩事故防止訓練	2
	汚泥・汚水の漏洩対応訓練	2
	フロンガスの漏洩対応訓練	5
六甲工場	汚泥・汚水の漏洩対応訓練	6
西宮工場	汚泥・汚水・薬品の漏洩対応訓練	6
豊橋工場	汚水・薬品の漏洩対応訓練	4
	フロンガスの漏洩対応訓練	8
	重油の漏洩対応訓練	8
東京工場	廃油の漏洩対応訓練	5
船橋工場	水道設備停止時の対応訓練	6
	フロンガスの漏洩対応訓練	6
	汚泥・汚水・薬品・廃油の漏洩対応訓練	3

【ISO14001認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月
伊藤ハム(株)	西宮工場	日本環境認証機構(JACO)
	東京工場	日本環境認証機構(JACO)
	豊橋工場	日本環境認証機構(JACO)
	六甲工場	日本環境認証機構(JACO)
	九州工場	日本環境認証機構(JACO)
	船橋工場	日本環境認証機構(JACO)
伊藤ハムデイリー(株)	東北工場	日本環境認証機構(JACO)
	小樽工場	日本環境認証機構(JACO)
伊藤ハム食品(株)	小矢部工場	日本環境認証機構(JACO)
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	霧島ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
IHミートパッカー(株)	統合認証	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
IHミートソリューション(株)	統合認証	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
沖縄フレッシュパック(株)		日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
(株)藤栄		日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
伊藤ハム物流(株)	仙台共配センター	日本品質保証機構(JQA)
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)		SGS International Certification Services Pty Ltd.

【ISO22000認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	霧島ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
IHミートパッカー(株)	宮城ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	東京ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	十和田ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	名古屋ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	関西ミートセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
IHミートソリューション(株)	川崎バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	神戸バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	札幌バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	青森バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	仙台バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	茨城バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	九州バックセンター	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
沖縄フレッシュパック(株)		日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
(株)藤栄		日本海事検定キューエイ(NKKKQA)

【ISO9001認証取得事業所】

サイト名	認証機関	登録年月
サンキョーミート(株)	有明ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
	霧島ミート工場	日本海事検定キューエイ(NKKKQA)
ファイブスタービーフ社(ニュージーランド)		SGS International Certification Services Pty Ltd.

【エネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
電力	総量(千kWh)	159,497	226,552	229,108	224,609	224,937
燃料 ^{※1}	総量(kl)	31,325	38,463	32,898	31,187	32,470
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	3,317,160	3,395,941	3,434,742	3,353,091	3,445,413
用水	総量(千m³)	4,662	5,732	5,773	5,710	5,798

		伊 藤 ハ ム				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
電力	総量(千kWh)	135,375	140,156	139,460	135,468	138,765
燃料 ^{※1}	総量(kl)	24,526	22,406	19,202	18,122	19,220
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	2,537,926	2,057,061	2,059,670	2,005,615	2,120,825
用水	総量(千m³)	3,889	3,774	3,713	3,610	3,530

		関 連 会 社				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
電力	総量(千kWh)	24,123	86,396	89,648	89,141	86,172
燃料 ^{※1}	総量(kl)	6,800	16,057	13,696	13,065	13,250
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	779,234	1,338,880	1,375,072	1,347,476	1,324,588
用水	総量(千m³)	773	1,958	2,060	2,100	2,268

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象 範囲	【2006～2009年度】2006年度より対象範囲を広げました。 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所、中部LC、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場、営業部 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2007年度より) ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各バックセンター ■沖縄フレッシュパック(株) ■(株)藤栄(2007年度より) ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■伊藤ハム物流(株)
	【2005年度】■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場

【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場のエネルギー等使用量の推移】

		合 計				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
電力	総量(千kWh)	159,497	158,737	158,893	157,136	160,651
	生産原単位(kWh/t)	1,202	1,242	1,197	1,233	1,217
燃料 ^{※1}	総量(kl)	31,325	27,834	22,840	22,048	23,509
	生産原単位(l/t)	236	218	172	173	178
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	3,317,160	2,369,390	2,390,720	2,369,538	2,500,989
	生産原単位(GJ/t)	25	19	18	19	19
用水	総量(千m³)	4,662	4,504	4,470	4,407	4,339
	生産原単位(m³/t)	35	35	34	35	33

		伊 藤 ハ ム				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
電力	総量(千kWh)	135,375	132,989	132,158	129,067	131,226
	生産原単位(kWh/t)	1,186	1,242	1,206	1,257	1,233
燃料 ^{※1}	総量(kl)	24,526	22,376	18,630	17,609	18,768
	生産原単位(l/t)	215	209	170	172	176
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	2,537,926	1,962,262	1,967,333	1,924,242	2,030,590
	生産原単位(GJ/t)	22	18	18	19	19
用水	総量(千m³)	3,889	3,758	3,697	3,596	3,515
	生産原単位(m³/t)	34	35	34	35	33

		関 連 会 社				
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
電力	総量(千kWh)	24,123	25,748	26,735	28,069	29,425
	生産原単位(kWh/t)	1,303	1,242	1,155	1,131	1,149
燃料 ^{※1}	総量(kl)	6,800	5,457	4,210	4,439	4,741
	生産原単位(l/t)	367	263	182	179	185
総エネルギー ^{※2}	総量(GJ)	779,234	407,129	423,387	445,295	470,399
	生産原単位(GJ/t)	42	20	18	18	18
用水	総量(千m³)	773	746	773	811	824
	生産原単位(m³/t)	42	36	33	33	32

※1：原油換算 ※2：総エネルギー：熱量換算(購入電力+燃料+購入蒸気)

対象 範囲	【2006～2009年度】2006年度より対象範囲を広げました。 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場■(株)大龍(2007年度より)
	【2005年度】■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデイリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場



環境データ

【二酸化炭素(CO₂)の排出量の推移】

(単位:t-CO₂)

	合 計				
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
排出量(t-CO ₂)	118,570	200,377	199,638	194,878	199,571
伊 藤 ハ ム					
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
排出量(t-CO ₂)	95,620	111,771	115,573	112,716	118,760
関 連 会 社					
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
排出量(t-CO ₂)	22,950	88,606	84,065	82,162	80,811

※二酸化炭素については、2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

対象範囲	【2006～2009年度】2006年度より対象範囲を広げました。 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、名古屋事務所、九州営業部、中央研究所、中部LC、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場、営業部 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2007年度より) ■サンキョーミート(株)有明ミート、霧島ミート各工場、ファーム部 ■IHミートパッカー(株)関西、名古屋、東京、宮城、十和田各ミートセンター ■IHミートソリューション(株)九州、神戸、茨城、川崎、仙台、青森、札幌各パックセンター ■沖縄フレッシュバック(株) ■(株)藤栄(2007年度より) ■ロイヤルデリカ(株)本社工場、岡山事業所 ■(株)菊水本社工場、サッポロファクトリー ■伊藤ハム販売(株) ■伊藤ハムミート販売東(株) ■伊藤ハムミート販売西(株) ■伊藤ハム物流(株) 【2005年度】 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
------	--

【ハム・ソーセージ類、調理加工食品生産工場の二酸化炭素(CO₂)排出量の推移】

(単位:t-CO₂)

	合 計				
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
排出量(t-CO ₂)	118,570	137,371	135,970	135,115	142,208
生産原単位(kg-CO ₂ /t)	894	1,075	1,024	1,060	1,077
伊 藤 ハ ム					
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
排出量(t-CO ₂)	95,620	111,771	110,106	107,905	113,465
生産原単位(kg-CO ₂ /t)	838	1,044	1,005	1,051	1,067
関 連 会 社					
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
排出量(t-CO ₂)	22,950	25,600	25,864	27,210	28,743
生産原単位(kg-CO ₂ /t)	1,239	1,235	1,117	1,096	1,122

※二酸化炭素については、2006年度より、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第三条（平成18年3月24日一部改正）」で定められた排出係数に基づいて算出しました。電気の使用に伴う排出係数が高くなっています。

対象範囲	【2006～2009年度】2006年度より対象範囲を広げました。 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2007年度より) 【2005年度】 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
------	--

【フロンガス(HCFC-22)排出量の推移】

(単位:kg)

	合 計				
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
HCFC-22	4,410	4,765	4,091	3,328	3,911

対象範囲	【2006～2009年度】 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2007年度より) 【2005年度】 ■伊藤ハム(株)九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋、北神、中部プラント各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
------	--

【グリーン購入の推移】

対象品目			グリーン購入の割合(%)				
			2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
事務用品 (金額ベース)	文具類	筆記具、ファイルなど	94.4	93.1	95.2	95.4	96.4
	紙類	コピー用紙、コンピューター用紙など	94.1	94.0	93.9	98.8	99.2
	合計		94.1	93.8	94.2	98.1	98.5
事務機器 (数量ベース)	OA機器類	パソコン、コピー機、ファクシミリなど	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	オフィス家具類	事務用机、椅子、OAテーブルなど	77.3	94.3	100.0	100.0	100.0
	合計		86.6	98.0	100.0	100.0	100.0
その他	照明器具類	ランプ、蛍光灯器具など	47.1	64.8	71.2	76.9	78.8
	制服類	作業着など	99.0	98.3	98.2	96.8	98.6

対象範囲	【2007～2009年度】 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場 ■浅草ハム(株)関東工場 ■ハーバーデリカテッセン(株)四日市工場 ■筑紫ファクトリー(株)北九州工場 ■(株)大龍(2009年度より) 【2005～2006年度】 ■伊藤ハム(株)本社事務所、東京事務所、九州、神戸、六甲、西宮、豊橋、東京、船橋各工場 ■伊藤ハムデiyリー(株)東北、小樽各工場 ■伊藤ハム食品(株)小矢部工場
------	---

環境保全活動の沿革

年 月	弊社の主な取り組み内容
1965年	・廃水処理設備の導入開始
1973年	・都市ガス燃料ボイラーの導入開始
1991年	・生産各工場に「環境管理室」を設置
1993年	・生産事業本部に「環境安全担当」を設置
1994年	・大型ボイラーから小型ボイラーに更新し環境負荷を低減
1998年	・営業車輛に天然ガス(CNG)自動車の導入開始(業界初) ・「環境担当役員」を選任、「環境安全推進室」を設置 ・全社的な環境活動推進組織「環境委員会」を設置 ・「環境委員会・生産部会」「工場環境会議」を設置
1999年	・「環境基本方針」を制定 ・東京工場が廃棄物計量システムを初めて導入
2000年	・西宮工場、豊橋工場、東京工場がISO14001を認証取得 ・環境監査実施基準を策定し、全社的に環境監査を開始 ・環境報告書を初めて発行 ・ホームページの「伊藤ハム環境保全活動の取り組み」を開設
2001年	・ニュージーランドのファイブスタービーフ社がISO14001を認証取得 ・六甲工場がISO14001を認証取得 ・中期経営計画において環境活動3ヵ年計画を策定 ・グリーン購入基本方針制定 ・生産工場を対象に環境会計を導入 ・西宮工場で都市ガスによるコージェネシステムが稼働
2002年	・九州工場、サンキョーミート(株)有明ミート工場・藤栄ファーム事業部・霧島ミート工場がISO14001を認証取得 ・環境基本方針の「環境行動指針」を一部改定 ・環境推進組織「生産部会」の下に「省エネ対策専門会議」を設置 ・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデiyリー(株)東北工場でコージェネシステムが稼働 ・コンプライアンス・ハンドブックを従業員に配布 ・日本食糧新聞社の「環境資源協力賞」を受賞 ・社会貢献活動理念と活動方針を策定
2003年	・「社会貢献推進期間」を設定し、全国の事業所で社会貢献活動の取り組みを開始 ・船橋工場がISO14001認証取得 ・「クリーンアップin甲子園浜」(初めての自主企画)を実施 ・こうべ市民演習林の名称が「こうべ森の学校」と決定し、本格的な森林保護活動がスタート
2004年	・デiyリー物流(株)(=現・伊藤ハム物流(株))、伊藤ハムデiyリー(株)東北工場がISO14001認証取得 ・全国農林水産関連企業環境対策協議会より感謝状を受賞 ・平木小学校(西宮市)において環境学習「出前授業」を初めて実施
2005年	・自然保護をテーマにした「“食とeco”わくわく探検隊」を初めて実施(春・秋)
2006年	・伊藤ハムデiyリー(株)小樽工場がISO14001を認証取得 ・社会貢献活動「環境学習都市にのみやパートナーシッププログラム事業」(「“食とeco”わくわく探検隊」と「クリーンアップin甲子園浜」の2つのイベント)に 対し西宮市長より感謝状を受賞 ・伊藤ハム食品(株)小矢部工場がISO14001を認証取得 ・「ハム工場を学ぼう」を初めて実施 ・九州工場、豊橋工場、伊藤ハムデiyリー(株)東北工場の重油を燃料とするコージェネシステムを廃止
2007年	・「環境委員会物流・オフィス部会」を設置
2008年	・「環境委員会・食肉生産部会」を設置 ・食育イベント「スマイルキャラバン」を実施
2009年	・西宮工場で「太陽光発電設備」が稼働
2010年	・(株)藤栄、沖縄フレッシュバック(株)、IHミートパッカー(株)、IHミートソリューション(株)がISO14001を認証取得





社会活動、環境保全活動などについてのお問い合わせ先

伊藤ハム株式会社
CSR本部環境安全推進課
〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号
T E L : (0798) 66-1289
F A X : (0798) 66-3391
U R L : <http://www.itoham.co.jp>
E-mail : eco@itoham.co.jp
発行 2010年11月



アロマフリー型大豆油インキを
使用しています。



有害な廃液の出ない水なし平版
印刷方式で、印刷しています。

表紙について

毎日のように更新された最高気温が作物の成育に甚大な影響を及ぼし、一方でたくさんの畜牛が病いのために命を落としました。2010年は、改めて「食の未来」を考える年になったのではないのでしょうか。そのようななか、伊藤ハムグループは食育のメインメッセージ「伝えていきたい食べるよろこび」を言葉で終わらせないために、「食」に携わる企業として食育活動はもちろんのこと、森林保護活動やユニセフ支援活動をはじめ、社会や環境負荷低減に貢献する取り組みを継続しています。1本でも多くの笑顔の芽、幸せの芽、喜びの芽が大きく育ち、花を咲かせることを願って。

次回発行予定 2011年6月



「2010年 CSR報告書」アンケート

● ご意見・ご感想をお聞かせください。 ●

伊藤ハム株式会社

CSR本部 環境安全推進課 行き

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

FAX 0798-66-3391

Q1. 本報告書をお読みになったのの評価をお聞かせください。

- | | | | |
|--------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ● 内容 | ☐ 分かりやすい | ☐ 普通 | ☐ 分かりにくい |
| ● ページ数 | ☐ 多い | ☐ 適当 | ☐ 少ない |
| ● デザイン | ☐ 良い | ☐ 普通 | ☐ 悪い |
| ● 活動項目 | ☐ 充実している | ☐ 普通 | ☐ 不足している |

Q2. 本報告書の中で、興味を持った内容についてお聞かせください。(複数回答可)

☐ 会社基本項目 1) 会社概要 2) ごあいさつ

☐ マネジメント 3) 経営方針 4) コンプライアンス

☐ 消費者の皆様とともに 5) 安全・安心への取り組み 6) お客様の声の反映 7) 食育

☐ 株主・投資家様とともに 8) 企業情報開示・IR活動 9) 開かれた株主総会を目指して 10) 株主優待制度

☐ 社会貢献活動 11) 社会貢献活動の取り組み 12) ユニセフ支援活動 13) ボランティア支援活動

14) 自然環境保護活動 15) 地域社会貢献活動

☐ 従業員とともに 16) 人材の育成・雇用 17) 労働安全衛生 18) 健康管理

☐ 環境保全活動 19) 環境宣言 20) 環境負荷の全体像 21) 第3次中期環境目標の取り組み結果と自己評価、第4次中期

環境目標 22) 2009年度の活動ハイライト 23) マネジメント 24) 環境負荷低減の取り組み 25) 環境情報開示

26) 従業員教育・地域とのコミュニケーション 27) 環境会計 28) 環境データ 29) 環境保全活動の沿革

Q3. 弊社の社会活動についてどのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない

5) 全く評価できない [その理由:]

Q4. 弊社の社会活動について期待されることは何ですか。

.....

.....

Q5. 弊社の環境保全活動についてどのようにお感じになりましたか。

- 1) 非常に評価できる 2) 評価できる 3) 普通 4) あまり評価できない

5) 全く評価できない [その理由:]

Q6. 弊社の環境保全活動について期待されることは何ですか。

.....

.....

Q7. 本報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

- ☐ お客様 ☐ お取引先 ☐ 製品の購買で担当者 ☐ 株主 ☐ 金融・投資機関 ☐ 研究・教育機関 ☐ 報道関係
- ☐ 行政関係 ☐ 環境NGO・NPO ☐ 伊藤ハムグループ事業所の近隣にお住まいの方 ☐ 学生 ☐ 環境の専門家
- ☐ 企業の環境・CSRで担当者 ☐ その他()

Q8. 本報告書の内容や社会活動、および環境保全活動に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

お答えいただきましたアンケートは、個人情報を除き統計データとして利用させていただきます。

個人情報に関しましては、ご希望により次年度の「CSR報告書」の発送にのみ利用し、

ご本人の承諾がない限り、第三者に開示することは一切ありません。

お名前		性別	男・女	年齢		ご職業・勤務先	
ご連絡先	ご住所	〒					
	TEL						

● 次年度の「CSR報告書」の送付を希望されますか? ☐ はい ☐ いいえ

「2009年CSR報告書」アンケート結果について

伊藤ハムグループ「2009年CSR報告書」（2009年10月発行）のアンケートに多数お答えいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、環境保全活動やCSR報告書の制作に活用させていただきます。今年度も裏面に「2010年CSR報告書」アンケート用紙となっております。本報告書を読まれてのご感想やお気づきの点などございましたら、ご記入のうえご送付いただければ幸いです。皆様からお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考にさせていただきます、CSR活動の取り組みや情報開示を進めてまいります。

2010年11月

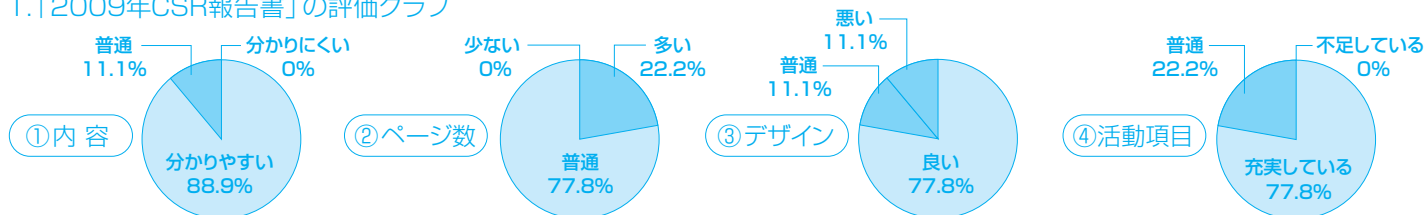
伊藤ハム株式会社 CSR本部 環境安全推進課

〒663-8586 兵庫県西宮市高畑町4番27号

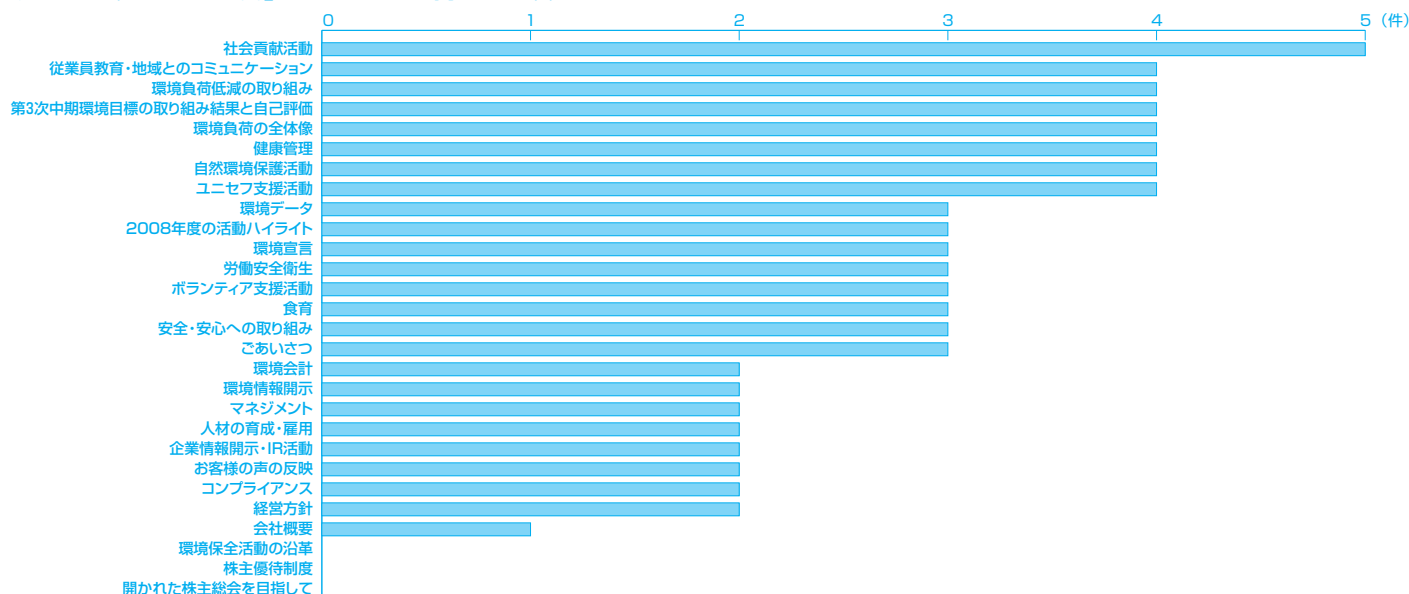
TEL: 0798-66-1289 FAX: 0798-66-3391

「2009年CSR報告書」アンケート集計結果（回収数9通）

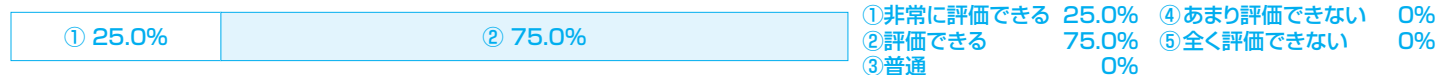
1. 「2009年CSR報告書」の評価グラフ



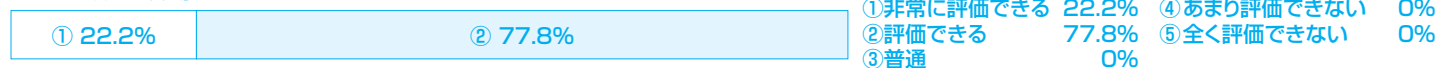
2. 「2009年CSR報告書」の中で興味を持った内容（件数: 回答総数74件の内訳）



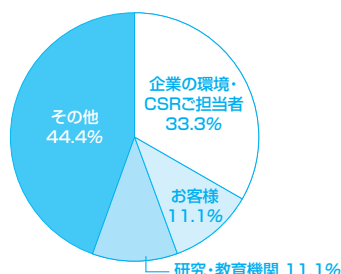
3. 社会活動について



4. 環境保全活動について



5. 「2009年CSR報告書」をどのようなお立場でお読みになられていますか。



6. 「2009年CSR報告書」や環境保全活動、社会活動についてのご意見の一部をご紹介します。

- 地域に根をおろした地道な活動を積み重ねてください。
- 食育の活動は、とても良い取り組みと思います。
- これからも会社の発展とコンプライアンスの強化に期待しています。
- 負の報告をどんどん公表してください。
- 廃棄物の削減に努力されることを期待します。
- 積極的に情報を開示してください。
- たくさん伝えたい事があると思いますが、もう少し見やすい方が良いと思いました。